



Iwate Golf Association
50th Anniversary

岩手県ゴルフ連盟 創立50年史

発刊のことは

岩手県ゴルフ連盟が創立50周年という節目を迎えましたことから、これを機に「岩手県ゴルフ連盟50年史 デジタル版」を作成する運びとなりました。この半世紀に及ぶ期間、ご尽力いただいた歴代理事長の皆様、加盟クラブの皆様、そしてゴルフを愛する全ての方々にあらためて深く感謝申し上げます。



当連盟は、1974年（昭和49年）3月、岩手ゴルフ倶楽部、八幡平カントリークラブ、三陸カントリークラブ、盛岡カントリークラブ、南岩手カントリークラブ、宮古カントリークラブの6クラブが一堂に会し、連盟設立を決議したことに始まります。初代理事長には故佐藤邦雄氏が就任され、その後も数多くの方々のご支援と協力をいただきながら、今日まで活動を続けてまいりました。

振り返れば、この50年という歳月の中で、多くの困難と試練がありました。記憶の新しいところでは、リーマン・ショック、東日本大震災、さらには近年の新型コロナウイルス感染症の影響など、私たちは幾多の厳しい時代を経験してきました。しかし、こうした困難を乗り越えられたのは、加盟クラブの皆様の団結力とゴルフ愛好者の皆様の熱意と支えがあったからにほかなりません。創立50周年を迎えられたことは、皆様一人ひとりの貢献の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

現在、日本は人口減少と高齢化が急速に進行しており、特に岩手県においてはその影響が顕著です。過去のような来場者数の大幅な増加が期待しにくい現状の中、私たちはゴルフ人口の底辺拡大という課題に真剣に向き合う必要があります。こうした時代だからこそ、加盟クラブが一丸となり、ゴルフの魅力を広く発信し、新たな愛好者を増やすための取り組みを強化していかなければなりません。

50周年は一つの大きな区切りではありますが、ゴルフ連盟の使命はまだまだ終わりではありません。これからも100周年に向け、新たな歴史を築いていくために、険しい道のりを歩んでいく覚悟を持たなければなりません。当連盟は、東北ゴルフ連盟や北東北ゴルフ協議会の一員として、引き続き日本ゴルフ界の発展に寄与し、地域社会にも貢献してまいります。

本50年史が、当連盟の歴史を振り返るとともに、未来への希望を語る貴重な記録として、ゴルフを愛する全ての方々にとって価値あるものとなることを願っております。そして、ここに記載される数々の歩みが、これからの活動への新たな原動力となることを祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

岩手県ゴルフ連盟

理事長 高橋 真裕

ゴルフの始まりから連盟設立 — 主な事業のあゆみ

1933 昭和 8 年 | 岩手県ゴルフ界の黎明期

▶▶▶ 岩手県のゴルフの始まり

1933 (昭和8) 年12月10日、盛岡市郊外の丘陵地、左京長根の岩手師範学校建設予定地 (現・盛岡市上田4丁目) に、1万5千坪のゴルフリンクスが完成し「開場打ち初めの会」を開催。ただゴルフボールを打つだけの素朴なものではあったがこれが岩手県のゴルフの起源とされる。

1936 (昭和11) 年、ゴルフ熱はさらに高まってゴルフコース造成の計画が具体化。有志20名が会員となり岩手ゴルフ倶楽部を設立し、1937 (昭和12) 年6月6日、岩手郡湍民村生出野に天然の草地を活かした全長3,011ヤード、9ホールのゴルフコースが完成した。



▲石黒知事を中心に岩手県で初めてゴルフが行われた様子が報道された (岩手日報 昭和8年12月11日付)



▲岩手GC花巻コース3番ホールのプレー風景 (岩手GC CD-ROMより転用)

▶▶▶ 花巻コースの誕生

同年7月、日中戦争が始まると日本全体が非常時となり、ゴルフ用品の輸入が禁止され、ガソリン統制を実施。車しか交通手段がない生出野コースでのプレーが困難となったため、花巻温泉の用地にゴルフ場造成の計画が上がり、1939 (昭和14) 年初夏、全長1,870ヤード、6ホール、パー 23の花巻コースが誕生。資金難から設計通りとはいかず6ホールに短縮したが盛岡駅から電車を利用してコースへ向かうゴルファーの姿が見られた。

1941 (昭和16) 年12月8日、太平洋戦争が勃発。国内ではスポーツを楽しむ余裕が失われゴルフどころではなくなった。翌年、大日本体育協会に加盟していたすべての競技団体が解散。日本ゴルフ協会 (JGA) も18年の歴史を閉じた。花巻コースは食糧増産のためコースの一部が田んぼとなった。

▶▶▶ ゴルフ復活の日

1945 (昭和20) 年8月15日、終戦を迎え長らく活動休止状態だった花巻コースは残された3ホールを整備してプレーを再開した。JGAは1949 (昭和24) 年に再始動し、翌年、日本アマ、日本オープンなどの競技が復活した。1952 (昭和27) 年4月28日、対日講和条約の締結により占領状態を脱し国際社会に復帰。日本に念願の平和が訪れた。花巻コースは南部利英理事長を中心にコースを再建。3ホールを増設して6ホールとなり、1956 (昭和31) 年には9ホールが完成した。

▶▶▶第1次ゴルフブームの到来

1957(昭和32)年10月24日～27日の4日間、世界30ヶ国、60名が参加して行われた「第5回カナダカップ(霞ヶ関CC)」で日本が団体、個人ともに優勝。日本で初めてテレビ中継されたこともあり、ゴルフというスポーツが民衆に広く周知された。



▲1965(昭和40)年岩手GC新山コース待望の18ホールオープン。テープカットの模様

第1次ゴルフブームの波は地方へも拡散され東北各地にも次々とゴルフ場が造られた。9ホールの花巻コースは拡張が難しいことから、紫波町新山一帯に用地を選定した。1961(昭和36)年8月13日、(株)岩手ゴルフ倶楽部が創設され、翌年9月15日に9ホール仮オープン。1965(昭和40)年8月21日にロッジ、食堂、浴場など設備を整えて正式オープンした。

同年10月、市政70周年を迎え盛岡駅が改築されて駅前に岩手中央バスビルが完成。岩手中央観光はビル屋上に県内初となるインドアゴルフ練習場を開場した。同社は1961(昭和36)年7月1日、雫石町鶯宿温泉男助山麓にゴルフ場、温泉施設、スキー場など家族ぐるみで楽しめるレジャーセンターを造る計画を発表。用地買収、農地転用、会員募集など困難を乗り越えて翌年10月3日、アウト9ホールを開場。1966(昭和41)年5月29日、18ホールをオープンした。県内2番目のコースの誕生である。

▶▶▶県内各地にゴルフ場建設

1963(昭和38)年4月1日、北上川の河川敷に9ホールの水沢リバーサイドゴルフ場が開場。三陸沿岸部、釜石製鉄所最盛期に岩手CCへ通っていたゴルフ愛好家より地元釜石市にゴルフ場造成の声が高まり、1965(昭和40)年11月7日、三陸カントリー倶楽部がオープン。盛岡市では市内岩山を開発し1967(昭和42)年10月8日、盛岡カントリークラブが完成。県南では花泉町金沢に1969(昭和44)年8月17日、南岩手カントリークラブが9ホール開場(1973(昭和48)年10月10日18ホール開場)。陸中海岸国立公園の中心地、浄土ヶ浜の景勝の地を生かした宮古カントリークラブが完成したのは1972(昭和47)年11月19日だった。

全英オープンV5のピーター・トムソン設計で話題となった南部富士カントリークラブは1974(昭和49)4月23日誕生した。同年7月11日、盛岡市では2番目、八幡平CCの兄弟コースとして盛岡ハイランドカントリークラブが開場した。



▲1962(昭和37)年10月開場の八幡平CC。高松宮殿下がお見えになり紅白のテープにはさみを入れた

■岩手県ゴルフ界の黎明期に誕生したゴルフ場

1933(昭和8)年12月10日	左京長根ゴルフリンクス	原野打ち放し
1937(昭和12)年6月6日	岩手ゴルフ倶楽部 生出野コース	9 H/3,011Y
1939(昭和14)年	岩手ゴルフ倶楽部 花巻コース	6 H/1,870Y PAR23
1956(昭和31)年	岩手ゴルフ倶楽部 花巻コース	9 H/3H増設
1962(昭和37)年9月15日	岩手ゴルフ倶楽部 新山コース	9 H/アウト開場
1962(昭和37)年10月3日	八幡平カントリークラブ	9 H/アウト開場
1963(昭和38)年4月1日	水沢リバーサイドゴルフ場	9 H
1965(昭和40)年8月21日	岩手ゴルフ倶楽部 新山コース	18H/18H開場
1965(昭和40)年11月7日	三陸カントリー倶楽部	18H
1966(昭和41)年5月29日	八幡平カントリークラブ	18H
1967(昭和42)年10月8日	盛岡カントリークラブ	18H
1969(昭和44)年8月16日	南岩手カントリークラブ	9 H/イン開場
1972(昭和47)年11月19日	宮古カントリークラブ	18H
1973(昭和48)年4月1日	水沢リバーサイドゴルフ場	9 H
1973(昭和48)年10月10日	南岩手カントリークラブ	18H/18H開場
1974(昭和49)年4月23日	南部富士カントリークラブ	18H
1974(昭和49)年7月11日	盛岡ハイランドカントリークラブ	18H

■1964 昭和39年 東北ゴルフ連盟の発足

1964(昭和39)年の東京オリンピック、1970(昭和45)年の万国博覧会は、戦後の復興と高度経済成長を象徴し、日本は国際社会への復帰をアピールした。プロゴルフ界では世代交代後の尾崎将司、樋口久子をはじめとするスターが生まれ、第2次ゴルフブームにつながった。また、ゴルフ場の建設ラッシュとなり1974(昭和49)年までの10年間で500コース以上が増加し、900コースを超えた。

ゴルフ場の増加に伴い統括する組織の設立が急務となった。全国では日本ゴルフ場連盟(現:日本ゴルフ場事業協会)が1966(昭和41)年1月に発足。JGAは関東、関西(中部、近畿、中四国、九州)両連盟で改組し、1969(昭和44)年10月21日再スタートを切った。

同年代、東北でも転機を迎える。1966(昭和41)年6月23日、グランドホテル仙台で東北ゴルフ連盟設立を協議する理事長会議が開かれ、東北6県の25クラブから21クラブの理事長が出席し満場一致で設立が決定。同年7月1日、東北ゴルフ連盟は発足した。東北クラブ親善、東北倶楽部対抗、東北アマ選手権など主催競技運営に加え経営問題についても協力できる組織作りを目指した。



▲東北ゴルフ連盟発足を伝える「ゴルフ東北」第22号

1974 昭和49年 岩手県ゴルフ連盟の誕生

県内で隣接する岩手GC、八幡平CC、盛岡CCの3クラブは1968（昭和43）年6月17日、クラブ親善大会を開催するなど連携を強化した。翌年6月10日には同大会のほか役員会を開き、毎月1回支配人会議の開催を決定。同年7月23日に行われた3クラブ支配人会議で岩手県選手権大会の開催を協議し、9月25日、八幡平CCで第1回大会並びに親善大会が開催された。以降、1973（昭和48）年まで計5回開催した。

3クラブ支配人会は1970（昭和45）年に三陸CC、南岩手CCが加わり岩手県内支配人会に発展。競技会、研修会開催などの対応機関として活動を行い連盟設立の礎となった。

昭和8年に始まった岩手県のゴルフ界は約40年の歴史を重ねて新たな躍進の時代を迎えた。1974（昭和49）年3月11日、盛岡グランドホテルで岩手県ゴルフ連盟結成会議が開かれ、岩手GC、八幡平CC、盛岡CC、三陸CC、南岩手CC、宮古CCの6クラブから代表者14名によって連盟設立を決議。規約、人事を決定し、初代理事長に佐藤邦雄（岩手）、副理事長に前川甚太郎（八幡平）、波紫春治（盛岡）の各氏が就任した。東北では福島（1964年）、宮城（1972年）、秋田（1973年）に次ぐ県ゴルフ連盟誕生となった。

1974 昭和49年 岩手県ゴルフ連盟の始動

▶▶▶納税組合設立

1974（昭和49）年8月5日の第2回理事会で、連盟設立後に開場した南部富士CC、盛岡ハイランドCCと、水沢リバーサイドゴルフ場の新規加盟を承認して10クラブ（11コース）となり、納税組合の設立人員に達したので設立を決定した。

▶▶▶グリーンキーパー研修会の開催

同年9月2日、第1回グリーンキーパー研修会を盛岡ハイランドCCで実施。雑草駆除や冬季のグリーン整備などについて学んだ。この研修会は翌年以降年2回開くこととし、必要に応じて講師を招いて研修を重ねた。

▶▶▶第1回支配人会の開催

同日行われた第1回支配人会には理事長、副理事長も出席して、主催競技の詳細について協議した。支配人会はその後も主催事業などについて理事会と綿密な連携を図る重要な役割を果たした。

▶▶▶主催競技の始まり

支配人会、理事会で検討の末、同年9月26日、第1回岩手県アマチュア選手権並びにクラブ対抗競技及びシニア選手権、第1回クラブ親善が八幡平CCで開催され、三浦哲生（南岩手）が初代チャンピオンに輝いた。シニア選手権は林貫一（盛岡）、クラブ対抗は八幡平CCが優勝した。

これらの競技は1980（昭和55）年以降、岩手県



▲第1回岩手県アマ選手権（八幡平CC）のプレー風景

アマ選手権（東北予選会）、クラブ対抗競技（東北予選会）、クラブ親善大会（シニア・グランドシニア選手権）としてそれぞれ単独開催されることとなった。

▶▶▶ゴルフ場新增設規制を陳情

1973(昭和48)年10月のオイルショック以降不況が長引き日本経済は低迷したが、資源が乏しい日本は体質転換を図り、省エネルギーの推進、技術革新など新たな付加価値を生み出すことで発展を遂げた。プロゴルフ界では青木功、尾崎将司の2強に中島常幸が加わりAON時代となった。全米女子プロ優勝の樋口久子、岡本綾子の米ツアー優勝もゴルフ人口増加に繋がり、1981(昭和56)年には全国延べ入場者数が5,000万人を突破した。

岩手県では1973(昭和48)年、11コースのゴルフ場入場者数が11万人を超え、その後、3コース（一関CC、栗駒GC、安比高原GC）の建設準備が進められていた。これ以上の新增設は過当競争招きさまざまな問題も危惧されることから、県連盟では、既に福島、宮城、秋田で行われているゴルフ場新增設規制の陳述書を県当局に提出した。

■ 1976 昭和51年 ■ 東北ゴルフ連盟 JGA 一括加盟が承認

岩手県のJGA加盟は1939(昭和14)年開場の岩手GCで、東北では仙塩GC(宮城)について2番目の加盟だった。その後JGAは1969(昭和44)年に関東、関西両地区連盟で改組し、以降、中部、中・四国、九州が加わり全国展開。1972(昭和47)年以降、TGAでも全国組織であるJGAへの加盟について議論が繰り返されていた。

上部団体加盟問題は難航した。競技団体としてのJGAか、経営者団体としての日本ゴルフ場連盟(日本ゴルフ場事業協会)か。TGAではパブリックコースの加入を認めているが、JGAでは未承認となる。一方、この時期にJGAに未加盟なのは東北地区だけであり、公平なハンディキャップ取得や公認コースレートが得られないことから、関東ゴルフ連盟に二重加盟するしかなく不合理との意見もあり、その判断は慎重を期した。

討議は平行線のまま数年の歳月が流れたが、1976(昭和51)年2月14日のTGA通常総会でJGA一括加盟申請が決議され、翌年1月25日、JGA理事会で47クラブの一括加盟が承認された。日本ゴルフ場連盟へは個別に加盟することが決まった。

JGA一括加盟により、クラブによって異なるハンディキャップ査定法をJGA方式に統一することとなり、まずは加盟クラブのコースレート査定を急いだ。1977(昭和52)年9月26日の秋保CCでコースレート査定委員会を発足し、12月までに12クラブを査定。岩手県では同年11月に南部富士CC、翌年10月に八幡平CC、盛岡ハイランドCC、岩手GC新山、盛岡CCの4コース。東北全体で1979(昭和54)年までに42クラブの査定を完了し、JGAハンディキャップ実施の準備を整えた。

■ 1978 昭和53年 ■ 娯楽施設利用税に関する陳情と成果

1978(昭和53)年4月に一関CC、7月に栗駒GC、10月に安比高原GCが開場し、県内のゴルフ場は

13クラブ(14コース)に増加した。当時ゴルフ場経営には1コース平均の入場者数が2～2.5万人と推定されていたが、積雪による冬期間クローズを余儀なくされる岩手県では全コースで延べ約18万人(1コース平均1.3万人)とその数値には及ばなかった。

厳しい状況下だったが県ゴルフ連盟では、入場者数増の契機としてゴルフ場新增設規制の要望のほか、ゴルフ場の娯楽施設利用税の合理化について陳情することとし、1978(昭和53)年8月の支配人会で実行委員会を設置し請願書をまとめ、9月に県当局、県議会へ提出した。その後も堅実な訴えの結果、1982(昭和57)年4月より以下の特例が認められた。

①65歳以上、障害者、学生、生徒の課外プレーは料金が20%以下の場合、利用税1/2

②早朝、薄暮プレーは料金が50%減の場合、利用税1/2。

その後、TGAは中央組織と情報交換を行い各県で利用税について陳情を続けたが、ゴルフはスポーツであるという主張はなかなか受け入れられなかった。「娯楽施設」の名称が外されたのは1989(平成元年)だった。



▲第1回IBCカップ(八幡平CC)初代チャンピオンの新沼初夫

1974 昭和49年 | 多彩なマスコミ主催競技

▶▶▶IBCカップ

地元放送局が主催しアマチュアゴルフ競技をテレビ放映する、他に類を見ない企画は東北でも岩手県が先駆者であった。当連盟設立と同時に後援協力した「IBCカップ」は、岩手放送(IBC)が「岩手県アマチュアゴルファーNo.1決定戦」として1974(昭和49)年8月20日、八幡平CCで第1回大会を放送開始。50年の歴史を誇る伝統的なアマ競技で、その後「シニアカップ(1985年～)」「グランドシニアカップ(1995年～)」「レディースカップ(2011年～)」と競技種別を増やし現在も続いている。IBCカップでは岩手・東北を代表する名プレーヤー佐藤良男(盛岡市)が最多の8勝をマーク。近年では高橋靖朋(北上市)が7勝を上げている。

▶▶▶東北チャンピオンカップ

テレビ岩手主催の「TCC東北チャンピオンカップ」は1983(昭和58)年6月、盛岡ハイランドCCでスタートし、アマ競技ではあるがテレビ放映された。第4回大会までは東北北3県、以降、東北全域と参加枠を広げ、東北トップアマ注目の競技となった。後の日本シニアチャンピオン三浦哲生(岩手)、日本ミッドシニアチャンピオン権純福(山形)両名が最多の3勝。唯一連覇(1998-99)を果たした星野英正(宮城)はアマ52冠を引揚げプロ入りした。



▲東北チャンピオンカップ

▶▶▶全国都道府県対抗アマ・岩手県代表選考会

全国新聞社事業協議会主催の「全国都道府県対抗アマ選手権(団体・個人)」は、ゴルフの国体として1983(昭和58)年から開始された。ゴルフ競技が国体の正式種目となったのは1999(平成11)年と後発で、本競技は全国対抗戦の原点でもあった。1996(平成8)年には第14回大会が南部富士CCで行われ熱戦が展開。岩手県代表選考会は岩手日報が主催し、全国大会出場をかけ多くの選手が挑戦した。

いずれの競技も多くのゴルファーの注目を集めその活躍の場となった。岩手県はもとより東北ゴルフ界の活性化につながり、多くのアマチュアゴルファーのレベルアップに貢献している。

1978 昭和53年 | プロゴルフトーナメントの開催

プロゴルフトーナメントといえば東北では「東北クラシック」や、「宮城テレビ杯女子オープン」が先駆けだが、岩手県でも盛んに開催された。

▶▶▶三菱ギャラントーナメント

男子ツアー「三菱ギャラントーナメント」は岩手県初のプロゴルフトーナメントとして、南部富士CCで計3度開催された。1978(昭和53)年6月初開催の第2回大会は中村通が優勝。大勢のギャラリーが詰めかけた。

1983(昭和58)年5月の第11回大会では人気急増の中島常幸が優勝。1992(平成4)年5月の第20回大会では青木功が2度目の優勝を飾った。岩手を舞台に日本で、世界で活躍するトッププロのプレーに多くのゴルフファンが感動し心に響いた。



▲三菱ギャラントーナメント 1992(平成4)年(南部富士CC)



▲安比高原レディース 1987(昭和63)年(安比高原GC)

▶▶▶安比高原レディース

女子ツアーでは1984(昭和59)年から竜ヶ森GC(現:安比高原GC)で開催された「リクルートとらばーゆカップ」が岩手県初。大迫たつ子が3連覇を果たしその強さを見せた。

その後「安比高原レディース」と名称変更し以降1992(平成4)年まで7度開催された。1987(昭和62)年大会(7月31～8月2日)では地元岩手出身の日蔭温子がツアー9勝目を上げ大歓声に沸いた。この年歴代最高位の賞金ランク2位となった。

▶▶▶東北オープンゴルフ選手権競技

東北在住、出身のプロとアマが一堂に会し、年1度争われるオープン競技「東北オープンゴルフ選手権競技」は1993(平成5)年から始まり、長年の悲願であった。岩手県では第3回大会が1995(平成7)年8月31～9月3日の4日間、南部富士CCで行われ、プレーオフの結果、板井栄一が優勝した。

▶▶▶岩手県オープンゴルフトーナメント

「岩手県オープンゴルフトーナメント」は岩手県のゴルフ振興及び、プロとアマチュアの親交を深め、そのレベルアップを目的とし2002（平成14）年からスタートした。地域では多くのトッププレーヤーが集結するゴルフトーナメントとして注目を集めている。主な優勝者は平塚哲二が最多の3勝をマーク。ほか深堀圭一郎、片山晋呉など。県内唯一のプロゴルフトーナメントとして継続している。



▲岩手県オープン 2014（平成26）年（八幡平CC）

1985 昭和60年 岩手県ゴルフ場防犯協議会の活動

1982年（昭和57年）以降、東北新幹線の開業や東北自動車道の整備によって交通インフラが向上し円滑化する一方で、関東、関西などの反社会勢力のゴルフ場来場が増加。さまざまなトラブルが増えた。そこで県連盟では健全なゴルフ場環境を整備すべく岩手県警本部に指導を仰いだ。

1985（昭和60）年7月17日に宮古CCで開催された当連盟第2回理事会で、岩手県ゴルフ場防犯協議会を設立。会則や人事など承認された。毎年定期的に総会、幹事会を開催し、警察官立寄所の表示板や、暴力団追放のプレートなどを作成し加盟クラブに配布するなどした。その後、規約に暴力団または暴力団関係者の入会を認めないことを追加し改訂。暴力団の現状や入場拒否、通報などの指導を受けながら、業界から反社会勢力の一掃を目指している。

1991 平成3年 岩手県初の全国大会「ねんりんピック91いわて大会」開催



▲ねんりんピック91岩手大会始球式の模様。手前が佐藤邦雄理事長（出展：第4回全国健康福祉祭いわて大会公式報告）

60歳以上の高齢者を中心とするスポーツ、文化、健康と福祉の総合的な祭典である全国健康福祉祭（愛称：ねんりんピック）は厚生省（現：厚生労働省）創立50周年を記念して、1988（昭和63）年に開始された。東北では初めてとなる本競技の第4回大会が岩手県で開催されることとなり、県内14市町村で様々な競技、催しが行われ延べ27万人が参加して大盛況となった。

ゴルフ交流大会は1991（平成3年）年9月24日、西根町の南部富士CCで全国43都道府県から64

チーム、最高齢88歳までの190人が秋晴れのゴルフ日和の下、18ホールストロークプレー（Wペリア）を楽しんだ。開催県の岩手県は全21チームが参加。結果、団体戦では鳥取チームが優勝。香川チームの2位に次いで岩手Eチーム（計206歳）が217.2で3位入賞を果たした。

「ねんりんピック91いわてゴルフ交流大会」は岩手県では初のゴルフ全国大会開催となり、幼児から70歳以上の高齢者の方々が、全国から参加した選手を地域を上げて応援。大会を盛り上げ好評を得た。

1995 平成 7 年 県内の延べ入場者数が 60 万人を突破

全国のゴルフ場数は1975(昭和50)年には1,000コースを突破。1986(昭和61)年に1,500コース、1992(平成4)年には2,000コースとなり、延べ入場者数も1億人を超えた。その後のバブル崩壊による景気低迷で入場者数は一時減少したが、経済復活の兆しを示し1997(平成9)年に再び1億人を超過。2002(平成14)年に歴代最多となる2460コースを記録した。

県内では1978(昭和53)年を最後にゴルフ場の建設は行われなかった。1986(昭和61)年6月に岩手GC花巻コースが閉場し、県内のゴルフ場数は12クラブとなったが、延べ入場者数は初めて30万人を超えた。同年10月にグランデール久慈CC、1988(昭和63)年8月に盛岡南GCが開場。景気の好転、若年層や女性ゴルファーの増加などによって37万人の入場を記録し、1990(平成2)年についに50万人を超えた。

その後、日本経済はバブル景気の崩壊による不況が続いたが、ゴルフ場建設においては不動産価値の下落や、規制緩和等の影響で新設ラッシュが続き、1999(平成11)年の県内ゴルフ場数は23コースに増加。県内全域に広がった。

加盟22クラブの延べ入場者数は1995(平成7)年に60万人超えのピーク達したが、バブル崩壊の影響が長引きゴルファーのプレー回数が減った。2002(平成14)年に60万人を割り、2010(平成22)年に50万人以下まで減少。ゴルフ場増加に伴う過当競争が増え厳しい経営環境が続いた。2016(平成28)年までに4クラブが退会したが、以降、現在まで1コース当たりの平均入場者数は約2.5万人で安定し現状を維持している。

1978(昭和53)年以降開場したゴルフ場

1986(昭和61)年10月	グランデール久慈CC ※1	1988(昭和63)年 8 月	盛岡南GC
1990(平成 2)年10月	北上市民ゴルフ場	1990(平成 3)年 7 月	金ヶ崎GC ※2
1991(平成 3)年10月	軽米ライベックスCC ※3	1992(平成 4)年 9 月	北上CC
1994(平成 6)年 7 月	湯田高原CC ※4	1995(平成 7)年 6 月	みちのく古都CC ※5
1995(平成 7)年 6 月	江刺CC	1995(平成 7)年 8 月	岩手沼宮内CC
1999(平成11)年10月	ローズランドCC		

※1 2006年退会 ※2 加盟期間2009～2015年 ※3 2015年名称変更 ※4 2008年退会 ※5 2011年退会

2004 平成16年 連盟創立30周年記念式典祝賀会を挙行

1968（昭和43）年の3クラブ支配人会議から進展、1974（昭和49）年に誕生した岩手県ゴルフ連盟は創立から30年という節目の年を迎えた。2004（平成16）年8月25日、岩手県ゴルフ連盟創立30周年記念式典・祝賀会が盛岡グランドホテルで開催された。県外から来賓、加盟倶楽部の代表者ら155名が出席。主催者を代表して南部利昭理事長があいさつ。第2代理事長八重樫金十郎氏、第3代理事長前川甚太郎氏のこれまでの功績を讃え感謝の意を表した。また、県内外で活躍した団体、個人選手の表彰を行い、ゴルフの普及と振興に尽力した団体としてマスコミ3社に感謝状を贈呈した。

ゴルフが生涯スポーツとして普及し、周知されることとなった1999（平成11）年の熊本国体でようやく正式競技として承認され、ゴルフは全国に広く浸透した国民スポーツのひとつとして定着した。岩手県ゴルフ連盟加盟22倶楽部は30年の時を経て新たな未来に向けて歩み始めた。



▲創立30周年記念式典会場風景



▲創立30周年記念式典会場風景



▲創立30周年記念ゴルフコンペの表彰式の模様

2011 平成23年 東日本大震災、復興への歩み

2011年（H23）3月11日（金）14時46分、日本観測史上最大規模、マグニチュード9.0の巨大地震が発生。震源は岩手県から茨城県まで南北500km、東西200kmに及び、最大40Mの大津波が沿岸地域に壊滅的な被害をもたらした。死者・行方不明者は1.8万人を超え、約13万棟が全壊。未曾有の大災害は多くの人々の生活を一瞬にして陥れた。



▲防波堤を越えて襲った津波（宮古市）

岩手県では死者5,146人、行方不明者約1,107人、建物倒壊数約2.6万棟（岩手県復興防災部防災課 2024/12/31 現在）。沿岸市町村約27万人のうち約10万人が浸水し、電気、ガス、水道等のライフライン、交通機関などインフラも停止。5万人を超える住民が非難を余儀なくされた。

被害が最も大きかった沿岸地域にあるゴルフ場は高台にあるため津波による被害は少なかったものの、多くのゴルフ場でクラブハウス等建物が損壊。コース内に大きな亀裂が入るなどクローズを余儀なくされ、その影響は深刻なものだった。

特に岩手県南で被害が集中した。南岩手CCは天井が崩壊するなどの被害とコースに無数の亀裂や陥没が生じた。一関CCはクラブハウスの全面ガラスが割れ、大理石の梁が落下した。グリーンに亀裂が走り、斜面が崩れるなどの被害を受けた。三陸CCはライフラインが寸断。入場者が激減し翌年閉鎖となった。宮古CCがある崎山地区は約30Mの津波を記録。高台の12番まで波が上がり恐怖に襲われた。

震災後、復旧には困難を極めたが、さまざまな障害や課題を抱えながらも関係者の努力や、多くの支援によって再開につなげ、復興への第一歩を踏み出した。深刻な被害を憂慮する反面、その強い意志と共に進む力を示す機会となり、未来への希望を抱き、次世代に引き継ぐべき教訓となった。



▲一関CCはグリーンに大きな亀裂が無数に入った



▲南岩手CCはレストランの天井が崩壊

2012 平成24年 | ゴルフルール倶楽部対抗開催

ルール倶楽部対抗は各倶楽部の代表選手2名の合計得点で競う屋内のゴルフ団体戦として、2006（平成18）年に全国に先駆け宮城県で開始された。岩手県では震災後の2012（平成24）年2月18日、盛岡市立総合プール研修室においてジュニアを含む57名が参加し初開催。併せてJGAゴルフルールセミナーも行った。ゴルフルールに対する理解を深める場を設けることを目的とし、日本ゴルフ協会の協力を得てクイズ形式のゴルフ規則問題解答による代表2名の団体戦と個人戦を実施した。2020～2022（令和4）年まで新型コロナウイルス感染症の影響により休止となったが2023（令和5）年に再開。全国で唯一ゴルフの机上の競技としてシーズンオフの開催が定着し、ゴルフ規則の知識習得および広範な普及に貢献している。



▲第1回大会の会場風景。JGAゴルフルールセミナーと同時開催した

2016 平成28年 希望郷いわて国体開催

第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」は、2016（平成28）年10月1日から10月11日まで、地域の絆を深め、スポーツの力で地域を元気にすることを目指して開催された。1970（昭和45）年、初開催の第25回大会から実に46年ぶりとなる。「広げよう感動。伝えよう感謝。」の大会スローガンに基づいて37の正式競技と、ダンス、太極拳など29のデモスポーツが県内27市町村の各会場で実施され、2万人以上の参加選手と応援する観客が感動を分かち合った。

ゴルフ競技が国体の正式種目となって東北では宮城、秋田に次ぐ開催。会場は成年男子が岩手沼宮内CC（岩手町）、少年男子が南部富士CC（八幡平市）、女子が安比高原GC（八幡平市）で、10月5日に公式練習、6～7日に本戦が実施。ゴルフは特に注目される競技のひとつとして各県から集まった

トップ選手たちが、難易度の高いコースで技術を競い合い、白熱したプレーを繰り広げた。岩手県では米澤蓮選手（盛岡中央高）が個人で6位入賞を果たした。

震災復興を象徴する大会としてその準備には多くの関係者の協力が不可欠だったが、県体協、県連盟はじめ、県民、多くのボランティアや地元の企業のサポートを受け、また、ゴルフ競技の普及と技術向上を目指し選手が全力を尽くした結果、大成功を遂げた。

2017 平成29年 日本女子プロゴルフ選手権が岩手県で開催

LPGAメジャー第2戦「日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯」は2017（平成29）年、記念すべき50周年を迎え、また、東日本大震災の復興支援を目的に岩手県で初開催となった。1968（昭和43）年から続く伝統ある大会の舞台は安比高原GC（6,640Yards Par71）。50回大会はLPGAが5年間

2016 希望郷 いわて国体 ゴルフ (正式種目)
ご声援・ご協力ありがとうございました!!
THANK YOU FOR SMILE!

震災復興の架け橋
「2016 希望郷いわて国体ゴルフ競技」は、昨年、下記日程で開催されました。「希望郷いわて国体ゴルフ競技」は多くのみなさまからのご支援・ご協力に寄りまして、無事、盛況裏に終了することができました。いわて国体ゴルフ競技を経験して県内選手の競技力向上や競技委員研修をはじめ学ぶべき点が多く、今後の事業・運営に役立てたいと思います。本当にありがとうございました。

会 期：2016年10月5日（水）～7日（金）
会 場：〈成年男子〉 岩手沼宮内 CC 〈岩手町〉
〈少年男子〉 南部富士 CC 〈八幡平市〉
〈女 子〉 安比高原 GC 〈八幡平市〉

いわて国体ゴルフ競技支援協力金
みなさまからご支援・ご協力いただきました平成28年度いわて国体ゴルフ競技支援協力金はこうして使われました。

項目	割合
競技運営費	16%
役員・委員 キヤディ費	24%
競技委員 キヤディ費	7%
冬季県外遠征事業	9%
国体選手強化事業	30%
会場コースでの練習ラウンド	10%
会場広聴 2%	
アパレル記念品	
シンボル旗 2%	

岩手県ゴルフ連盟

▲希望郷いわて国体ゴルフ競技開催御礼のポスター



▲東北・岩手県で初開催された日本女子プロゴルフ選手権会場の安比高原GC

のビッグプロジェクトとして計画し、東日本大震災復興支援のスローガン「心をひとつに」を基に、さまざまなチャリティー活動を展開。『トーナメントを開催することで岩手県の皆さんへ直接、女子プロゴルファーのエネルギーをお届けしたい』という小林浩美会長の熱意が実現した。

賞金総額2億円、優勝賞金3,600万円と格段にスケールアップし、優勝者は永遠に賞賛され女子プロゴルフの頂点決める日本一決定戦。また、アジアの軸となるであろう闘いは9月7日～10日までの

4日間いよいよ開戦を迎えた。女子プロ132名が東北岩手で日本一の座をかけスタートした。

『コースコンディションはすごくいい。飛距離の出る選手が有利だが好スコアが出せるかは別の話し』とはコースセッティング担当の岡本綾子。女子ツアーでは最高レベルの仕上がりで難易度の舞台にトッププレイヤーが挑む。2日目を終了してトップは柏原明日架ら4アンダー・138で3名が並び、48位タイまでの65名が決勝に進出した。

3日目、最終日も激戦となり上位陣はシーソーゲームが展開された。最終盤の17、18番の連続バーディーで勝負を決めた李知姫が通算5アンダーで今大会初優勝。ツアー22勝目を飾った。地元ゴルフファンにとって感動の4日間の幕は閉じたが、この大会を通してゴルフの魅力を再発見し、さらに地域の絆を深め、復興への希望を新たに作るきっかけとなった。

2020 令和 2 年 | 新型コロナウイルス感染症による影響

新型コロナウイルス感染症は2019（令和元）年12月に中国で第1例目の感染者が報告され、翌年1月に日本で最初の感染者が確認された。その後、驚異的な感染力で全世界に拡がり、重症化、死亡リスクが高いことから人々を恐怖に陥れた。不要不急の外出を禁止する緊急事態宣言が発令。健康と安全への不安のみならず教育、経済にも大きな打撃を与え、医療システムの切迫も社会問題になった。この年の国体は中止。予定されていた東京オリンピックは翌年に延期され無観客開催となるなど、その影響は多くに及んだ。2023（令和5）年5月までに感染者数が約3,300万人、死亡者約7.4万人が確認されている。

岩手県は全国で唯一感染者「ゼロ」が続いた。しかし、7月に確認されて以降は同様に拡大し感染者数23万人を超えた。4月発令の緊急事態宣言を受け、県連盟では2020（令和3）年7月までの主催競技を中止。その後、検温、消毒、換気、マスク着用の義務付けなど感染症対策を徹底し、8月のミッドアマ選手権を通常開催。中止としていた親善は9月に、アマ選手権は10月に延期しシニア選手権優勝者決定と併せ行った。2021年以降は通常通り開催した。



▲競技開催時には感染症対策を徹底

2022 令和 4 年 | 日本スポーツマスターズ 2022 岩手大会

スポーツ愛好者の中で競技志向の高いシニア世代（原則35歳以上）を対象としたスポーツの祭典。日本スポーツマスターズ2022岩手大会は2022（令和4）年9月22日から26日、岩手県盛岡市を中心に水泳、サッカー、テニスなど13競技が、9市4町計25会場で開催された。

日本スポーツマスターズは2001（平成13）年よりスタートし、岩手県での開催は初めてで、東北では福島、秋田に次ぎ3度目。期間中は47都道府県から6千人以上の選手が参加し最高のパフォーマンスを発揮した。また、地元県民の声援も大きく、ボランティアやスタッフが協力し、スムーズな運営が行われた。

ゴルフ競技は会期前の9月7～9日に、安比高原GCで開催された。競技方法は2日間36ホール、3チーム上位2名合計の団体戦と、個人戦で争われ、男子（55歳以上）は137名、女子（50歳以上）は140名が参加して熱戦を展開。男子は愛媛県が、女子は愛知県と兵庫県が同スコアで優勝した。

コロナ禍で3年ぶりの開催となった今大会は選手たちにとって特別な意味を持っていた。長期間の自粛を経て、勝敗を問わずスポーツを楽しむことで健康を促進し、仲間との絆を再確認する場となった。各所で熱気あふれる競技が展開され、選手たちの真剣な姿勢と笑顔が印象的だった。



▲ゴルフ競技会場の安比高原GC。女子のスタート風景



▲日本スポーツマスターズ 2022 岩手大会表彰式会場の風景



▲日本スポーツマスターズ 2022 岩手大会記念ボードを前に記念撮影

2024 令和 6 年 | 連盟創立 50 周年記念事業を推進

▶▶▶ 記念表彰並びに懇親会を開催

県連盟は1974年（昭和49）年3月11日、県内6クラブの代表者によって連盟設立を決議。同年3月13日に発足した。2024（令和6）年、半世紀の歳月を経て創立50周年を迎えるにあたり「連盟の記録の



▲創立50周年記念表彰・懇親会会場の風景



▲創立50周年記念表彰式で功労者、顕彰者、感謝状贈呈の皆さんと連盟役員で記念撮影

作成」「表彰」「記念コンペ」「ゴルファーの育成」の4つの事業を実施することが決定し、はじめに実施することとなった「創立50周年記念表彰」と懇親会が、2月9日、盛岡グランドホテルで連盟役員関係者はじめ表彰者35名が出席して賑やかに開催された。

表彰式では「功労者表彰」「競技選手顕彰者表彰」「ご協力企業への感謝状」の3部門について高橋真裕理事長が賞状と記念品の授与を行った。懇親会の冒頭で高橋理事長が『リーマン・ショック、東日本



▲高橋副理事長が中締め

大震災、そして新型コロナの蔓延など様々な出来事がある中で、この50周年を迎えられたことを非常に嬉しく思い、多くの方々に支えられたことに感謝を申し上げたい。これからも非常に険しい道ですが、県連盟の発展のため努力を行ってまいりますので今後ともよろしくお願い申し上げます』と挨拶。各受賞者からのスピーチの後、高橋三男副理事長が中締め、会は盛況のうちに終了した。

岩手県ゴルフ連盟 IWATEKEN GOLF ASSOCIATION 50th ANNIVERSARY GOLF COMPETITION

創立50周年 記念ゴルフコンペ

●開催期間 6月12日(土)～6月13日(日)
●会場 岩手県ゴルフ連盟 盛岡大会場(18ホール)
●参加費 参加費(1人) 1,000円
●抽選 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日)
●抽選 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日)
●抽選 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日) 抽選会(6月14日)

加賀18倶楽部の指定日から、お好きな日時を選んで、50周年記念価格で楽しくプレー！

参加者募集

岩手県ゴルフ連盟

岩手県ゴルフ連盟 盛岡大会場(18ホール)
TEL: 019-821-1111 FAX: 019-821-1112
岩手県ゴルフ連盟 盛岡大会場(18ホール)
TEL: 019-821-1111 FAX: 019-821-1112
岩手県ゴルフ連盟 盛岡大会場(18ホール)
TEL: 019-821-1111 FAX: 019-821-1112

▲50周年記念コンペポスター

▶▶▶ 記念コンペを各加盟倶楽部で開催

記念ゴルフコンペは6月～8月末までの期間中、加盟18倶楽部でそれぞれ各4日間の開催日を設定。競技方法は各会場4日間の総合成績(Wペリア)により、順位を決定する。プレー費は50周年記念特別料金とし、賞は1～10位、飛び賞、50周年記念賞(5万円分のプレー補助券)など。

多くのゴルファーがこの企画に賛同し好評を得たことで、入場者拡大の相乗効果が生まれた。

おかげさまで50周年

Iwateken Golf Association 50th Anniversary

¥1,000
(プレー補助券)

有効期限: 2024年12月31日

岩手県ゴルフ連盟

◀参加賞のプレー補助券

▶▶▶ゴルフスクールの実施

JGAでは厚生労働省の健康増進普及月間である2024(令和6)年9月15日～21日を「ゴルフ健康週間」とし、ゴルフを通じた健康維持増進のためのプログラム「WAGスクール」の提供を開始。WAGとは「ウィズエイジングゴルフ」の略で、年齢を重ねることを受け入れ、その過程で得られる経験や知識を活かすことを目的としており、ゴルフを始める、復帰する、継続することをサポート。ゴルフを通じてコミュニティを築ききっかけとなることを目指したプログラムとして全国展開された。

県連盟では50周年記念事業の一環として全国に先駆け、9月13日に、盛岡ハイランドCCで「1Dayプログラム」を実施。参加したのは45歳以上のゴルフ初心者の皆さん11名で、専門のトレーナーによるオリエンテーション、ゴルフ知識の学習から始まり、ストレッチ、打撃練習、パッティング練習を行い、3ホールのコースプレーを経験。ゴルフの楽しさを実感する貴重な経験となった。



▲WAGゴルフスクールに参加した方々で記念撮影

2024 令和6年 | ジュニア育成事業の展望



▲ジュニアゴルフ教室レッスン風景

県連盟では子供たちにゴルフの楽しさとその魅力を伝え、エチケット、マナーの習得、技術の向上はもちろんスポーツマンシップの啓発など、さまざまなジュニア育成事業に注力している。春、秋年2回のジュニアゴルフ競技主催のほか、JGA・TGA主幹の「ジュニアゴルフスクール」は年に3回開催。日本プロゴルフ協会協力の下、所属プロゴルファーの指導を受けゴルフ規則の学習や、アプローチ、パットの練習、コースレッスンと充実した内容で毎年高評価を得ている。

また、ゴルフの経験を問わず誰でも入門することができる「ジュニアゴルフ教室」は盛岡CCで毎週第1木曜日(16:00～18:00)、第3土曜日(14:00集合)に開催中。放課後の好きな時間を利用してレッスンを受けることができ、気軽にゴルフを経験できるイベントとして参加者が急増している。

ゴルフを通じて得られる経験や友情は、子供たちの人生を豊かにする貴重な財産となり、ゴルフが次世代に引き継がれていくようさらなる普及と発展に努めたい。

全国大会への躍進 ― 岩手から羽ばたいた選手達

1986 昭和61年 | 史上最年少女子トーナメント出場 ― 大久保由嘉



▲大久保由嘉のショット。1991年東北ジュニア（仙台CC）

岩手県一関市出身。小学3年生よりゴルフをはじめ、中学時代は東北ジュニアで3連覇、東北女子アマで初優勝を飾り、日本女子アマ、日本女子オープンに出場。1986（昭和61）年9月、山ノ目中1年の時にミヤギテレビ杯女子オープンに出場し、当時の史上最年少トーナメント出場者としてテレビ出演するなど脚光を浴びた。1989（昭和64）年3月、「日医神和カップ日刊スポーツ・ジュニアオープン」で全国大会初優勝。同年4月、「第9回全国中学校ゴルフ選手権春季大会（主催：日本高等学校・中学校ゴルフ連盟）」に出場し公式戦でも初優勝を飾り注目を集めた。

高校時代は東北ジュニアで2勝、東北女子アマでは2位と11打の大差記録でV2達成。日本ジュニア4位タイ、日本女子アマ、日本女子オープンに出場。ミヤギテレビ杯女子オープンは計5度の出場などトップアマチュアとして経験を重ねた。高校卒業後は1992（平成4）年、フジテレビとホリプロが共催した女子プロゴルファー育成プロジェクト「スーパーレディ」第1期生として合格。その後、関東のゴルフ場で研修生として所属し、1994（平成6）年、JLPGAプロテスト合格。66期生。

1994 平成6年 | 岩手・東北のアマゴルフ界を牽引 ― 三浦 哲生

岩手県から東北、全国へと躍進した歴史に残る名プレーヤー。岩手県アマ選手権初代チャンピオンで優勝10回の歴代最多勝利記録を保持し、シニア（2勝）、ミッドシニア（4勝）、グランドシニア（3勝）のシニアグランドスラムを達成。1979（昭和54）年の「第14回東北アマ選手権」で初優勝し、初めて日本アマ選手権に出場。後に『あのコースの高い難易度がいい経験になった。ゴルフに対する考え方が変わった』と語っている。

その後も東北アマ（2勝）、シニア（5勝）、ミッドシニア（1勝）、グランドシニア（5勝）と東北大会でもシニア全部門を制し、倶楽部対抗メダリスト（5回）と勝利数を更新。岩手県・東北のアマゴルフ界をリードした。



▲日本シニアオープンで初のローエストアマの栄冠に輝いた三浦哲生

全国大会では1979（昭和54）年の日本アマ参戦以降、毎年のようにシニア、シニアオープンなど多くの試合を経験。1993（平成5）年には日本代表選手として「第5回アジア太平洋シニアアマ選手権」に出場しオーストラリアに遠征。練習方法など多くを学び、多いに刺激を受け、再びゴルフに情熱を注ぎこんだ。

翌年11月、奈良国際GCで開かれた「第4回日本シニアオープン選手権（優勝：青木功）」では4日間通算8オーバー・296とプロの中で奮闘。15位タイでローエストアマに輝き念願のシニア日本一の座を射止めた。日本シニア選手権は1997（平成9）年、1998（平成10）年優勝で史上初の連覇を達成。10年後の2008（平成20）年は日本グランドシニア選手権優勝。公式戦は岩手県、東北、全国合わせて通算100勝を超え、岩手県アマゴルフ界の発展と次世代ゴルファーの育成・指導など多大な貢献を果たした。

2021（令和3）年、秋の叙勲で旭日双光章を受章。

1999 平成11年 | 日本ミッドシニア選手権優勝 — 西本 晃幸

58歳で初めて東北アマ選手権に出場し、その後もコンスタントに県予選で上位に入り東北シニア選手権など東北大会に参戦。東北倶楽部対抗では安比高原GCの代表選手としてチームに貢献した。東北地区唯一のオープン競技だった東北オープンゴルフ選手権にも1996（平成8）、1998（平成10）年の2度出場。1998年には日本シニア選手権出場で全国大会デビューを果たした。

最も注目を浴びたのが1999（平成11）年、5年前に65歳以上のクラスとして新設された東北ミッド



▲1999年に開催された日本ミッドシニア選手権で初優勝を飾った西本晃幸

ドシニア選手権に初出場し、宮城県のベテラン氏家貞夫（富谷）とプレーオフの末初優勝を飾った。同年10月開催の「第6回日本ミッドシニア選手権」に初出場。初日、3オーバー・75でトップとは5打差の6位タイにつけた。2日目、上位陣が崩れる中、4オーバー・76、通算7オーバー・151でホールアウト。結果、田近良三（兵庫県）とのプレーオフとなったがこれを制し見事初出場、初優勝を飾った。

岩手県内では三浦哲生に次ぐ全国大会覇者として話題となり、その後も岩手県グランドシニア選手権優勝など25年以上活躍する実力者で岩手を代表するゴルファーの一人である。

2013 平成25年 | 日本スポーツマスターズで個人優勝 — 高橋 功

南岩手CC所属。岩手県ゴルフ界で長年に渡り優れた成績を収めたトップアマ。岩手県アマ選手権は1998（平成10）年の初優勝から延べ5勝をマーク。岩手県シニア選手権は通算6勝を上げ最多勝利記録を樹立。その記録は未だに更新されていない。東北大会は1995（平成7）年の東北アマ選手権が初出場だった。東北シニア選手権は2012年から参戦。10位、5位、2位、3位と好成績を残していたが、2016（平成28）年の第39回大会（秋田太平山CC）で悲願の初優勝を飾った。

2012（平成24）年の「第12回日本マスターズ・ゴルフ競技〈男子〉（土佐CC／高知県）」では全国大会に初出場ながら通算4オーバーで個人戦第2位入賞を果たした。翌年9月11日～12日に福岡県北九州市の若松GCで開催された第13回大会では初日唯一のアンダーパー・71で単独トップに立つと、2日目も手堅く1オーバーにまとめて通算イーブンパー・144。堂々全国大会初優勝を成し遂げ前年の雪辱を晴らした。その後は2015（平成27）年の石川大会で団体戦7位、2019（平成31）年の岐阜大会で団体戦4位入賞に貢献した。



▲日本スポーツマスターズで個人優勝を果たした高橋 功。写真は2016年東北シニア優勝（秋田太平洋CC）

2023 令和 5 年 | 報知シニアアマゴルフ選手権優勝 — 雛鶴秋四郎



▲報知シニアアマゴルフ選手権優勝で全国規模の大会で初制覇した雛鶴秋四郎

37歳からゴルフに挑戦し、独学だが練習熱心で技を鍛えた晩成タイプで、1999（平成11）年に安比高原GCの選手として初めて東北倶楽部対抗に出場するなど競技ゴルフに傾注した。

2005（平成17）年の岩手県アマ選手権で公式戦初優勝を飾ると、その後、アマ（3勝）、シニア（4勝）、ミッドアマ（1勝）、グランドシニア（1勝）と幅広いクラスで計9勝を上げ、トップアマとして岩手県アマゴルフ界のレベル向上に寄与。多くのゴルファーに影響を与えた。

東北大会では2008年（第31回）、2012年（第31回）、2017年（第31回）の東北シニア選手権で優勝。10年越しに延べ3勝を上げた。東北グランドシニア選手権では2023（令和5）年の第45回大会、2024（令和5）年の第46回大会を連覇中。

全国大会は2002年の日本アマ選手権で初出場を果たし、以降、岩手、東北の予選を勝ち上がって日本シニア、日本ミッドシニアなどに出場。2019（平成31）年の日本スポーツマスターズ・ぎふ清流大会では岩手県代表選手として個人6位、団体4位入賞に大きく貢献した。

2023年7月12～13日、阿山CC（三重県）で行われた「第12回報知シニアアマゴルフ選手権」で初優勝。全国にその名を轟かせた。初日、3アンダー・69の好スコアをマーク。自分の年齢より少ないスコアでラウンドするエージシュートを決めて単独トップに立つと、2日目は75にまとめて通算イーブンパー・144で逃げ切り、見事全国規模の大会で初優勝を成し遂げた。『まさかこんなに大きなタイトルを獲れるとは思わなかった。本当に印象に残る試合だった』と喜びを語った。

岩手の誇り ― 地元出身プロの輝かしい功績

1970 昭和45年 | 日本人初の海外メジャー挑戦 ― 佐々木マサ子

岩手県紫波郡矢巾町出身。中学卒業後の17歳からゴルフを始め、1967（昭和42）年、日本女子プロゴルフ協会（JLPGA）の第1回プロテストで合格しJLPGA1期生となった。同年の女子部創立記念競技で4位。翌年の日本女子オープン選手権で2位に入るなど健闘し賞金ランク2位で自己最高位。女子プロ創世期の日本人選手としては168cmの高身長で期待のルーキーだった。

1970（昭和45）年6月、プレゼントバレーCCで開催された「全米女子プロ選手権」に樋口久子と共に日本人で初めて参戦し24位。同年7月の「全米女子オープン」にも出場するなど海外メジャーデビューを果たし注目を浴びた。9月開催の日本女子プロ九州大会で初優勝。メジャー挑戦が実を結んだ。

その後、全米女子プロには延べ9回、全米女子オープンには4回出場するなど海外ツアーへの挑戦を積極的に行った。1972年（昭和47）年11月に浜松シーサイドGCで行われた第5回日本女子オープン選手権（JGA主催）で国内メジャー初優勝を飾り、常勝樋口久子の公式戦10連覇を阻止した。

1980年（昭和55）年の開幕戦ワールドレディスでは、前年度賞金ランク2位の大迫たつ子とのプレーオフを制し8年ぶり3度目のツアー優勝を飾った。以降1985年までランク50位を保持。1994年以降はツアーから離れティーチングプロとして次世代の指導に尽力している。



▲1972年7月の全米女子オープン出場した佐々木マサ子（右）と樋口久子（左）（写真提供：ゲッティ イメージズ）

1990 平成2年 | 富士通レディースなどツアー2勝をマーク ― 柴田規久子



▲1992年9月の東海クラシックで初優勝を飾った柴田規久子（左）と同時優勝の鈴木志保美（右）、男子優勝のG・マーシュ（中）（写真提供：共同通信社）

岩手県岩手郡岩手町出身。学生時代にバスケットボールやソフトボールなどで鍛え、高校卒業後の18歳からゴルフを始めた。1989（平成1）年5月のJLPGAプロテストで見事合格。6月1日入会の第59期生。岩手県では日蔭温子以来14年ぶりの女子プロ誕生に期待が高まった。同期にツアー8勝の村井真由美、7勝の原田香里、西田智慧子らがいる。

たった4年でプロになり、翌1990（平成2）年にはレギュラーツアー 28試合に出場。9月の「東海クラシック雪印レディース」で3日目の荒天により鈴

木志保美と優勝を分けたが、プロ2年目で初優勝を決め初シードをも奪った。

その後は優勝こそないもののツアーで頻繁に上位に入り1992（平成4）年には賞金総額2,000万円の大台を突破。1994（平成6）年10月、浜野GCで行われた「富士通レディース」では最終日に上位陣が崩れる中、2アンダー・70でこの日のベストスコアをマーク。通算3アンダーで逆転優勝を決めた。初優勝よりも難しいと言われる2勝目をあげ、賞金ランクも自己最高の28位を記録した。

ティーチングプロフェッショナル資格A級所持。2000（平成12）年以降はレッスンプロとして活動するようになり、練習場での個人レッスンや、ラウンドレッスンなど後世の育成に努めている。

■ 2024 令和 6 年 ■ ツアー通算 18 勝。日本プロゴルフ殿堂入り — 日蔭 温子

1954年岩手郡岩手町生まれ。中学時代はバレーボールの選手。1971（昭和46）年に武蔵CC（埼玉県）に就職しゴルフと出会った。その後都内のゴルフ練習場で研修生となり、1975（昭和50）年に2度目の受験でプロテスト合格。JLPGA17期生で岡本綾子と同期。身長163センチ、美人プロゴルファーとして人気を博した。1980（昭和55）年の「ヤクルトミルミル」で初優勝。1982（昭和57）年の「日本女子オープン選手権」では攻めのゴルフでJLPGA公式戦を初めて制しこの年さらに2勝を上げた。

1982（昭和57）年から5年間米ツアーに参戦。1打の重さを知りその経験が後の活躍に繋がった。1987（昭和62）年8月の「安比高原レディース」では最終日、トップと3打差の10位スタートだったが、地元ゴルファーの声援を受け逆転優勝。郷里で亡き父の霊前に優勝の報告ができた。同年は他に5勝を上げ賞金5,600万円を獲得。ランク自己最高位の2位と大きく前進した。

プロ入り後15年が過ぎ着実にキャリアを重ねる一方、1988（昭和63）年に右大腿部筋の肉離れを起こしプロ断念かという重傷を負った。しかし翌年2勝を上げて奇跡的に復活。1991（平成3）年には原因不明の頭痛で救急搬送され、一謹一休、二謹一休など競技スタイルを変えた。同年、いすゞレディースで優勝。翌年6月の日本女子オープンでは唯一アンダーパー通算1アンダー・287で10年ぶり2度目のメジャー制覇。逆境を乗り越えた。1993（平成5）年には五洋建設・KTVレディース（いすゞレディース）で女子ツアーで3人しか記録していない同一大会5勝の偉業を達成し、ツアー通算18勝目を上げた。

容姿端麗な実力派プロとして写真集出版するなど多くのゴルフファンを魅了。現役のプレーヤーでありながら大学の客員教授や非常勤講師としてゴルフの授業を受け持つという異色の二刀流でも注目を集めた。また、JLPGA理事などの要職も兼任するなどゴルフの普及と発展に尽力した。その輝かしいキャリアと功績が非常に高く評価され、2024（令和6）年1月、第10回日本プロゴルフ殿堂入り式典の女子プレーヤー部門で顕彰され『名誉ある殿堂入りを果たすことができとてもうれしく思う。ゴルフと出会えてよかった』と喜びを語った。長年にわたる努力と情熱が認められた。



▲女子プロツアー通算18勝。日本プロゴルフ殿堂入りを果たした日蔭温子

2024 令和 6 年 岩手のゴルフ少年が夢の男子プロツアー優勝 — 米澤 蓮

岩手県盛岡市の小学生が2011（平成23）年の東北ジュニア男子11歳以下の部で優勝した。9歳からゴルフを始め、ほぼ独学で腕を磨き既に多くの大会での実績があった。夢はプロゴルファーと言うその少年の名は米澤蓮。2013（平成25）年、東北ゴルフ連盟がJGAの基本指針に基づき世界で活躍できるジュニアゴルファーの発掘・育成・強化することを目的にスタートしたジュニア指定強化選手の初期メンバーに選出。盛岡中央高時代は東北高校選手権3連覇。東北ジュニアは中学2年から高校3年まで5連覇を達成し将来有望な選手として期待が高まった。

2018（平成30）年、東北福祉大に進学。1年先輩に金谷拓実がいる。進学と同時にJGAナショナルチーム入りを果たし夢の一つ実現させた。同年、インドネシアで開催された「第18回アジア競技大会ゴルフ競技」の団体に金谷、今野大喜、中島啓太と共に金メダルを獲得。1998年のバンコク大会以来5大会20年ぶりの快挙に貢献した。「ネイバーストロフィーチーム選手権」は2019年と連覇を達成。「アジアパシフィックオープン2019」では惜しくもアマ優勝とはならなかったが2位タイでローアマチュアを獲得した。

2018（平成30）年、地元岩手のローズランドCCで開催された東北アマ選手権で通算17アンダーの最少スコアを更新し快勝。全国レベルの実力を見せつけた。2021（令和3）年の日本オープン選手権ローアマ。2018年からプロツアーに15試合出場し予選落ちがわずかに1回と安定した成績を残した。

同年ファイナルQTで55位となりプロ転向。2022（令和4）年はチャレンジトーナメントを中心に参戦したが、手が過剰反応を起こすパットのイップスに悩まされ、プロデビュー年で挫折を味わった。アマ時代から師事するジョーンズコーチの指導や、豪州ツアーに挑戦するなど実践と試行錯誤を重ねた結果復調の兆しを見せ、この年のファイナルQT7位で翌年のツアー出場資格を勝ち取った。

プロ2年目の2023（令和5）年は「パナソニックオープン」「カシオワールドオープン」で2位など賞金総額3,900万円を獲得しランク22位で初のシード入りを果たした。2024（令和6）年、ツアー3戦目の「中日クラウンズ」で初優勝。18番で痺れる1.5Mのバーディパットをねじ込み『ゴルフ人生で一番気持ち良かった。課題のパットを打つ事ができた』とプロ3年目で初の栄冠に笑顔が溢れた。8月の「横浜ミナトChampionship」では最終日にノーボギーの64とスコアを伸ばし、通算22アンダーと逆転劇を演じて早くもツアー2勝目を引き寄せた。結果、2024年はビッグタイトル2勝を含む賞金総額6,300万円を獲得しランク12位と自己最高位を記録。

岩手のゴルフ少年が夢を実現した物語は未来に向かってまだまだ続く。

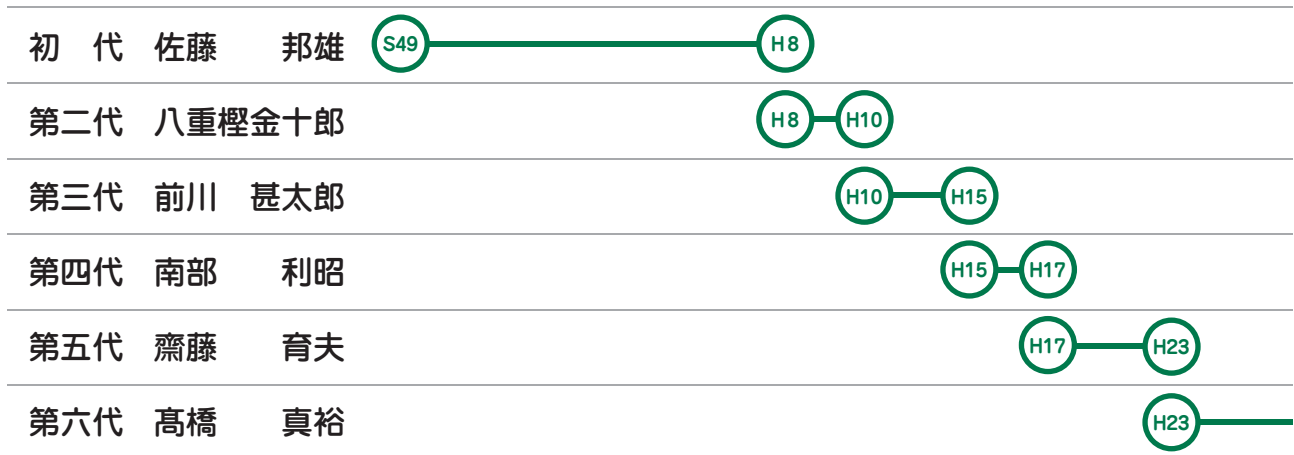


▲苦難を乗り越え中日クラウンズで初優勝を飾った米澤蓮（写真提供：©JGTOimages）



▲2011年東北ジュニア選手権男子11歳以下の部で優勝した少年時代の米澤蓮

岩手県ゴルフ連盟 歴代理事長



岩手県ゴルフ連盟 加盟倶楽部一覧



安比高原ゴルフクラブ

〒028-7306 岩手県八幡平市安比高原180-1
TEL 0195-73-5311 FAX 0195-73-5044



一関カントリークラブ

〒021-0902 岩手県一関市萩荘字黒木1-4
TEL 0191-24-4411 FAX 0191-24-3330



岩手ゴルフ倶楽部 新山コース

〒028-3453 岩手県紫波郡紫波町土館字馬ノ子1-1
TEL 019-673-7121 FAX 019-673-7122



岩手沼宮内カントリークラブ

〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町一方井17-24-1
TEL 0195-62-5511 FAX 0195-62-1105



江刺カントリー倶楽部

〒023-0171 岩手県奥州市江刺田原字深沢54-1
TEL 0197-35-7818 FAX 0197-35-7819



きたかみカントリークラブ

〒024-0323 岩手県北上市和賀町煤孫1地割97-1
TEL 0197-73-6911 FAX 0197-73-6966



北上市民ゴルフ場

〒024-0058 北上市下鬼柳4地割1番地92
TEL 0197-67-3011 FAX 0197-67-3022



栗駒ゴルフ倶楽部

〒029-4504 岩手県胆沢郡金ケ崎町永沢石持沢6-44
TEL 0197-44-3811 FAX 0197-44-2119



南部富士カントリークラブ

〒028-7111 岩手県八幡平市大更47-34-2
TEL 0195-76-3151 FAX 0195-76-3617



ニュー軽米カントリークラブ

〒028-6413 岩手県九戸郡軽米町大字円子2-4-1
TEL 0195-45-3331 FAX 0195-45-3330



八幡平カントリークラブ

〒020-0574 岩手県岩手郡雫石町鶯宿温泉
TEL 019-695-2326 FAX 019-695-2575



水沢リバーサイドゴルフ場

〒023-0841 岩手県奥州市水沢真城明神堂22-2
TEL 0197-24-7747 FAX 0197-22-4103



南岩手カントリークラブ

〒029-3102 岩手県一関市花泉町金沢字鹿伏 14-2
TEL 0191-82-2300 FAX 0191-82-3479



宮古カントリークラブ

〒027-0097 岩手県宮古市崎山 4-86-3
TEL 0193-62-7001 FAX 0193-62-7003



盛岡カントリークラブ

〒020-0803 岩手県盛岡市新庄 16 地割字貝田 53-1
TEL 019-624-4476 FAX 019-624-4478



盛岡ハイランドカントリークラブ

〒020-0054 岩手県盛岡市猪去沢 迦堂 44-3
TEL 019-659-1234 FAX 019-659-1155



盛岡南ゴルフ倶楽部

〒028-3121 岩手県花巻市石鳥谷町戸塚 2-13-1
TEL 0198-45-5681 FAX 0198-45-5685



ローズランドカントリークラブ

〒028-4421 岩手県岩手郡岩手町一方井 1-120-1
TEL 0195-62-6111 FAX 0195-62-6115

【取材協力】 第4回全国健康福祉祭いわて大会公式報告
【写真提供】 岩手日報 岩手ゴルフ倶楽部 八幡平カントリークラブ 岩手放送
南部富士カントリークラブ 一関カントリークラブ 南岩手カントリークラブ
ゲッティ イメージズ ©JGTOimages 共同通信社

岩手県ゴルフ連盟 主催競技 歴代優勝者一覧

岩手県アマチュアゴルフ選手権競技

1974(昭和49)年	1	三浦	哲生
1975(昭和50)年	2	佐藤	良男
1976(昭和51)年	3	佐藤	良男
1977(昭和52)年	4	佐藤	良男
1978(昭和53)年	5	佐藤	良男
1979(昭和54)年	6	三浦	哲生
1980(昭和55)年	7	三浦	哲生
1981(昭和56)年	8	鈴木	信行
1982(昭和57)年	9	三浦	哲生
1983(昭和58)年	10	北田	正彦
1984(昭和59)年	11	佐藤	良男
1985(昭和60)年	12	三浦	哲生
1986(昭和61)年	13	広瀬	功
1987(昭和62)年	14	佐藤	良男
1988(昭和63)年	15	三浦	哲生
1989(平成1)年	16	佐藤	良男
1990(平成2)年	17	金山	昭彦
1991(平成3)年	18	宮田	広志
1992(平成4)年	19	川越	憲和
1993(平成5)年	20	三浦	哲生
1994(平成6)年	21	佐藤	良男
1995(平成7)年	22	三浦	哲生
1996(平成8)年	23	塩竈	博隆
1997(平成9)年	24	武藤	武
1998(平成10)年	25	高橋	功
1999(平成11)年	26	武藤	武
2000(平成12)年	27	高橋	功
2001(平成13)年	28	三浦	哲生
2002(平成14)年	29	三浦	哲生
2003(平成15)年	30	伊藤	久哉
2004(平成16)年	31	星	健太
2005(平成17)年	32	雛鶴	秋四郎
2006(平成18)年	33	星	健太
2007(平成19)年	34	高橋	功
2008(平成20)年	35	高橋	克成
2009(平成21)年	36	高橋	功
2010(平成22)年	37	岩崎	潤也
2011(平成23)年	38	工藤	悟
2012(平成24)年	39	亀澤	将也
2013(平成25)年	40	高橋	功
2014(平成26)年	41	米澤	蓮
2015(平成27)年	42	佐々木	仁
2016(平成28)年	43	米澤	蓮
2017(平成29)年	44	米澤	蓮
2018(平成30)年	45	米澤	蓮
2019(令和1)年	46	雛鶴	秋四郎
2020(令和2)年	47	渡邊	優人
2021(令和3)年	48	雛鶴	秋四郎
2022(令和4)年	49	渡邊	優人
2023(令和5)年	50	渡邊	優人
2024(令和6)年	51	星	健太

岩手県倶楽部対抗競技

1974(昭和49)年	1	八幡平
1975(昭和50)年	2	盛岡A
1976(昭和51)年	3	八幡平
1977(昭和52)年	4	盛岡

1978(昭和53)年	5	南部富士
1979(昭和54)年	6	南岩手
1980(昭和55)年	7	南部富士
1981(昭和56)年	8	南部富士
1982(昭和57)年	9	南部富士
1983(昭和58)年	10	南部富士
1984(昭和59)年	11	南部富士
1985(昭和60)年	12	南部富士
1986(昭和61)年	13	栗駒
1987(昭和62)年	14	一関
1988(昭和63)年	15	南部富士
1989(平成1)年	16	一関
1990(平成2)年	17	一関
1991(平成3)年	18	一関
1992(平成4)年	19	一関
1993(平成5)年	20	一関
1994(平成6)年	21	南部富士
1995(平成7)年	22	安比高原
1996(平成8)年	23	南岩手
1997(平成9)年	24	栗駒
1998(平成10)年	25	盛岡ハイランド
1999(平成11)年	26	盛岡
2000(平成12)年	27	南岩手
2001(平成13)年	28	みちのく古都
2002(平成14)年	29	軽米
2003(平成15)年	30	盛岡ハイランド
2004(平成16)年	31	一関
2005(平成17)年	32	一関
2006(平成18)年	33	栗駒
2007(平成19)年	34	八幡平
2008(平成20)年	35	ローズランド
2009(平成21)年	36	南岩手
2010(平成22)年	37	八幡平
2011(平成23)年	38	八幡平
2012(平成24)年	39	ニュー軽米
2013(平成25)年	40	栗駒
2014(平成26)年	41	安比高原
2015(平成27)年	42	ローズランド
2016(平成28)年	43	ローズランド
2017(平成29)年	44	ローズランド
2018(平成30)年	45	八幡平
2019(令和1)年	46	ローズランド
2020(令和2)年		※中止1
2021(令和3)年	47	南岩手
2022(令和4)年	48	八幡平
2023(令和5)年	49	北上市民
2024(令和6)年	50	八幡平

岩手県女子倶楽部対抗競技

2003(平成15)年	1	軽米
2004(平成16)年	2	盛岡
2005(平成17)年	3	盛岡
2006(平成18)年	4	盛岡
2007(平成19)年	5	盛岡
2008(平成20)年	6	南部富士
2009(平成21)年	7	南部富士
2010(平成22)年	8	盛岡ハイランド
2011(平成23)年	9	盛岡

2012(平成24)年	10	栗駒
2013(平成25)年	11	栗駒
2014(平成26)年	12	盛岡
2015(平成27)年	13	栗駒
2016(平成28)年	14	盛岡ハイランド
2017(平成29)年	15	盛岡ハイランド
2018(平成30)年	16	盛岡
2019(令和1)年	17	栗駒
2020(令和2)年		※中止1
2021(令和3)年	18	盛岡
2022(令和4)年	19	盛岡
2023(令和5)年	20	盛岡
2024(令和6)年	21	盛岡

岩手県シニアゴルフ選手権競技

1974(昭和49)年	1	林	貴一
1975(昭和50)年	2	林	貴一
1976(昭和51)年	3	林	貴一
1977(昭和52)年	4	林	貴一
1978(昭和53)年	5	林	貴一
1979(昭和54)年	6	及川	大治
1980(昭和55)年	7	中館	大三
1981(昭和56)年	8	林	貴一
1982(昭和57)年	9	熊谷	松男
1983(昭和58)年	10	中館	大三
1984(昭和59)年	11	和泉	喜六
1985(昭和60)年	12	川崎	一
1986(昭和61)年	13	水落	四郎
1987(昭和62)年	14	高橋	久男
1988(昭和63)年	15	千田	良治
1989(平成1)年	16	柳川	鎬根
1990(平成2)年	17	韓	錫道
1991(平成3)年	18	岩沼	与一
1992(平成4)年	19	芳賀	光
1994(平成6)年	1	小林	幸栄 ※1
1995(平成7)年	2	熊谷	新発
1996(平成8)年	3	氏家	貞夫
1997(平成9)年	4	三浦	哲生
1998(平成10)年	5	古屋	次雄
1999(平成11)年	6	千田	英昭
2000(平成12)年	7	三浦	哲生
2001(平成13)年	8	塩竈	博隆
2002(平成14)年	9	小林	幸栄
2003(平成15)年	10	藤本	次郎
2004(平成16)年	11	村上	康雄
2005(平成17)年	12	岩持	弘見
2006(平成18)年	13	氏家	良典
2007(平成19)年	14	佐藤	良男
2008(平成20)年	15	藤本	次郎
2009(平成21)年	16	福原	敏行
2010(平成22)年	17	佐々木	儀一
2011(平成23)年	18	柿沢	昭弘
2012(平成24)年	19	高橋	功
2013(平成25)年	20	高橋	功
2014(平成26)年	21	雛鶴	秋四郎
2015(平成27)年	22	高橋	功
2016(平成28)年	23	雛鶴	秋四郎
2017(平成29)年	24	高橋	功

※1：シニア・ブランドシニア・女子選手権は規約改正により 1994（平成6）年から第1回 ※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

2018(平成30)年	25	高橋	功
2019(令和1)年	26	雛鶴	秋四郎
2020(令和2)年	27	堀岡	洋幸
2021(令和3)年	28	高橋	功
2022(令和4)年	29	千田	正純
2023(令和5)年	30	雛鶴	秋四郎
2024(令和6)年	31	菅原	吉博

岩手県ミッドシニアゴルフ選手権競技

1994(平成6)年	1	芳賀	元
1995(平成7)年	2	阿部	義男
1996(平成8)年	3	阿部	義男
1997(平成9)年	4	柳川	鎬根
1998(平成10)年	5	和泉	覚
1999(平成11)年	6	加賀	敬
2000(平成12)年	7	和泉	覚
2001(平成13)年	8	菊池	喜昭
2002(平成14)年	9	和泉	覚
2003(平成15)年	10	菊池	喜昭
2004(平成16)年	11	新沼	初夫
2005(平成17)年	12	三浦	哲生
2006(平成18)年	13	三浦	哲生
2007(平成19)年	14	三浦	哲生
2008(平成20)年	15	三浦	哲生
2009(平成21)年	16	村上	洋二
2010(平成22)年	17	岩持	弘見
2011(平成23)年	18	村上	洋二
2012(平成24)年	19	齋藤	富夫
2013(平成25)年	20	藤本	次郎
2014(平成26)年	21	佐藤	貞治
2015(平成27)年	22	小岩	正一
2016(平成28)年	23	佐々木	儀一
2017(平成29)年	24	佐藤	廣美
2018(平成30)年	25	阿部	昭典
2019(令和1)年	26	千田	正純
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	27	佐藤	定義
2022(令和4)年	28	千田	正純
2023(令和5)年	29	阿部	勝郎
2024(令和6)年	30	佐藤	勝志

岩手県グランドシニアゴルフ選手権競技

1977(昭和52)年	4	佐藤	邦雄
1978(昭和53)年	5	金谷	勇三郎
1979(昭和54)年	6	松島	真蔵
1980(昭和55)年	7	松島	真蔵
1981(昭和56)年	8	八重樫	謙二郎
1982(昭和57)年	9	松島	真蔵
1983(昭和58)年	10	林	貴一
1984(昭和59)年	11	林	貴一
1985(昭和60)年	12	林	貴一
1986(昭和61)年	13	林	貴一
1987(昭和62)年	14	高橋	豊己
1988(昭和63)年	15	水落	四郎
1989(平成1)年	16	水落	四郎
1990(平成2)年	17	川崎	一
1991(平成3)年	18	相馬	瀧次郎
1992(平成4)年	19	林	貴一
1994(平成6)年	1	黄川田	正雄 ※1
1995(平成7)年	2	川崎	一
1996(平成8)年	3	村上	豊吉
1997(平成9)年	4	川口	栄

1998(平成10)年	5	川口	栄
1999(平成11)年	6	千田	良治
2000(平成12)年	7	黄川田	正雄
2001(平成13)年	8	岩渕	安蔵
2002(平成14)年	9	岩渕	紀夫
2003(平成15)年	10	岩渕	紀夫
2004(平成16)年	11	西本	晃幸
2005(平成17)年	12	和泉	覚
2006(平成18)年	13	和泉	覚
2007(平成19)年	14	和泉	覚
2008(平成20)年	15	菊池	喜昭
2009(平成21)年	16	三浦	哲生
2010(平成22)年	17	熊谷	新発
2011(平成23)年	18	三浦	哲生
2012(平成24)年	19	菅沼	戌
2013(平成25)年	20	三浦	哲生
2014(平成26)年	21	丹内	清春
2015(平成27)年	22	齋藤	富夫
2016(平成28)年	23	藤本	次郎
2017(平成29)年	24	齋藤	富夫
2018(平成30)年	25	佐藤	孝
2019(令和1)年	26	藤本	次郎
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	27	遠藤	光則
2022(令和4)年	28	菅野	弘見
2023(令和5)年	29	木野	富雄
2024(令和6)年	30	雛鶴	秋四郎

岩手県女子アマチュアゴルフ選手権競技

1985(昭和60)年	12	伊藤	睦子
1986(昭和61)年	13	小林	早苗
1987(昭和62)年	14	大久保	由嘉
1988(昭和63)年	15	小林	早苗
1989(平成1)年	16	伊藤	睦子
1990(平成2)年	17	川崎	恵子
1991(平成3)年	18	小林	早苗
1992(平成4)年	19	小林	早苗
1994(平成6)年	1	浪岡	志津代 ※1
1995(平成7)年	2	小林	早苗
1996(平成8)年	3	滝澤	美貴子
1997(平成9)年	4	館	京子
1998(平成10)年	5	須田	栄子
1999(平成11)年	6	柏崎	倫子
2000(平成12)年	7	今渕	美穂子
2001(平成13)年	8	今渕	美穂子
2002(平成14)年	9	菊池	るみ子
2003(平成15)年	10	松本	詔子
2004(平成16)年	11	山田	治美
2005(平成17)年	12	菊池	るみ子
2006(平成18)年	13	今渕	美穂子
2007(平成19)年	14	小岩	みき
2008(平成20)年	15	今渕	美穂子
2009(平成21)年	16	小岩	みき
2010(平成22)年	17	菊池	るみ子
2011(平成23)年	18	小山田	風沙
2012(平成24)年	19	田中	千聡
2013(平成25)年	20	小岩	みき
2014(平成26)年	21	岩谷	佳奈
2015(平成27)年	22	阿部	早苗
2016(平成28)年	23	佐藤	彩奈
2017(平成29)年	24	津志田	翔子
2018(平成30)年	25	津志田	翔子

2019(令和1)年	26	中山	萼衣
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	27	齋藤	桃子
2022(令和4)年	28	菊池	るみ子
2023(令和5)年	29	齋藤	桃子
2024(令和6)年	30	中野	舞子

岩手県ミッドアマチュアゴルフ選手権競技

2007(平成19)年	1	福原	敏行
2008(平成20)年	2	雛鶴	秋四郎
2009(平成21)年	3	伊藤	一雄
2010(平成22)年	4	高橋	功
2011(平成23)年	5	工藤	悟
2012(平成24)年	6	高橋	禎朋
2013(平成25)年	7	細越	元
2014(平成26)年	8	山崎	明満
2015(平成27)年	9	星	健太
2016(平成28)年	10	星	健太
2017(平成29)年	11	小泉	徹
2018(平成30)年	12	佐々木	太郎
2019(令和1)年	13	山崎	明満
2020(令和2)年	14	高橋	靖朋
2021(令和3)年	15	川村	憲彦
2022(令和4)年	16	山崎	明満
2023(令和5)年	17	佐々木	太郎
2024(令和6)年	18	富士原	猛

岩手県女子グランドシニアゴルフ選手権競技

2018(平成30)年	1	鶴飼	裕子
2019(令和1)年	2	鶴飼	裕子
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	3	藤原	由美子
2022(令和4)年	4	藤田	美穂
2023(令和5)年	5	大志田	京子
2024(令和6)年	6	菊池	るみ子

**岩手県アマチュアゴルフチャンピオン決定戦
(理事長杯)**

2021(令和3)年	1	高橋	靖朋
2022(令和4)年	2	渡邊	優人
2023(令和5)年	3	佐藤	佑斗
2024(令和6)年	4	佐々木	太郎

**岩手県アンダーハンディキャップゴルフ競技
(男子Aクラス)**

2002(平成14)年	1	長澤	義則
2003(平成15)年	2	三浦	洋一
2004(平成16)年	3	塩竈	博隆
2005(平成17)年	4	佐藤	定義
2006(平成18)年	5	佐藤	金治
2007(平成19)年	6	伊藤	國男
2008(平成20)年	7	村上	洋二
2009(平成21)年	8	本城	吉弘
2010(平成22)年	9	菅原	秋男
2011(平成23)年	10	阿部	寛
2012(平成24)年	11	小森	仁
2013(平成25)年	12	立花	清久
2014(平成26)年	13	鈴木	和裕
2015(平成27)年	14	佐藤	一雄
2016(平成28)年	15	菅原	幸喜
2017(平成29)年	16	藤澤	貴行
2018(平成30)年	17	藤原	亮

※1：シニア・グランドシニア・女子選手権は規約改正により 1994（平成6）年から第1回 ※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

2019(令和1)年	18	加藤	幸二
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	19	多田	文章
2022(令和4)年	20	千葉	幸司
2023(令和5)年	21	後藤	羽翼
2024(令和6)年	22	戸張	宣彦

岩手県アンダーハンディキャップゴルフ競技 (男子Bクラス)

2003(平成15)年	2	吉田	義治
2004(平成16)年	3	菅原	芳弘
2005(平成17)年	4	小原	善信
2006(平成18)年	5	日下	養一
2007(平成19)年	6	大柏	良太郎
2009(平成21)年	8	佐藤	俊行
2010(平成22)年	9	石塚	祐彦
2011(平成23)年	10	高橋	博
2012(平成24)年	11	後藤	俊和
2013(平成25)年	12	伊藤	光宏
2014(平成26)年	13	遠藤	威
2015(平成27)年	14	遠藤	威
2016(平成28)年	15	上野	寿夫
2017(平成29)年	16	塚本	健二
2018(平成30)年	17	菊池	昭男
2019(令和1)年	18	木村	博
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	19	平賀	俊二
2022(令和4)年	20	赤石	航
2023(令和5)年	21	河門前	一博
2024(令和6)年	22	八重樫	俊昭

岩手県アンダーハンディキャップゴルフ競技 (女子Aクラス)

2005(平成17)年	4	戸張	くみ
2006(平成18)年	5	佐藤	喜久子
2007(平成19)年	6	菊池	規幸
2008(平成20)年	7	東館	明子
2009(平成21)年	8	小岩	みき
2010(平成22)年	9	清水	順子
2011(平成23)年	10	田中	千聡
2012(平成24)年	11	菊池	るみ子
2013(平成25)年	12	前田	智恵子
2014(平成26)年	13	千葉	貴子
2015(平成27)年	14	須田	栄子
2016(平成28)年	15	米倉	育子
2017(平成29)年	16	藤原	由美子
2018(平成30)年	17	三浦	小百合
2019(令和1)年	18	菊池	るみ子
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	19	佐々木	克子
2022(令和4)年	20	番地	ゆか
2023(令和5)年	21	三浦	小百合
2024(令和6)年	22	星川	あけみ

岩手県アンダーハンディキャップゴルフ競技 (女子Bクラス)

2012(平成24)年	11	千葉	貴子
2016(平成28)年	15	才神	直美
2017(平成29)年	16	星川	あけみ
2018(平成30)年	17	藤原	日出子
2019(令和1)年	18	村畑	香織
2020(令和2)年		※中止1	

2021(令和3)年	19	藤原	日出子
2023(令和5)年	21	須田	栄子
2024(令和6)年	22	橋本	こずえ

岩手県ゴルフ親善大会(一般親善)

1974(昭和49)年	1	佐々木	隆一
1975(昭和50)年	2	佐藤	玲子
1976(昭和51)年	3	木場	正
1977(昭和52)年	4	千田	良治
1978(昭和53)年	5	新海	九二
1979(昭和54)年	6	高橋	一見
1980(昭和55)年	7	八重樫	昌宏
1981(昭和56)年	8	千葉	節男
1982(昭和57)年	9	佐々木	裕一郎
1983(昭和58)年	10	前川	繁勝
1984(昭和59)年	11	阿部	勉
1985(昭和60)年	12	野々村	弘重
1986(昭和61)年	13	千葉	耕一
1987(昭和62)年	14	内田	敏
1988(昭和63)年	15	小野寺	康実
1989(平成1)年	16	横尾	尚美
1990(平成2)年	17	竹田	直則
1991(平成3)年	18	佐藤	忠治
1992(平成4)年	19	平沢	安昭
1993(平成5)年	20	千葉	吉弥
1994(平成6)年	21	佐々木	昌裕
1995(平成7)年	22	小野寺	康実
1996(平成8)年	23	大林	征弘
1997(平成9)年	24	高原	茂
1998(平成10)年	25	丹内	清治
1999(平成11)年	26	高橋	寿一
2000(平成12)年	27	大石	幸一
2001(平成13)年	28	中館	祐三
2002(平成14)年	29	高橋	龍悦
2003(平成15)年	30	昆	一久
2004(平成16)年	31	竹田	直則
2005(平成17)年	32	神山	良好
2006(平成18)年	33	川村	功
2007(平成19)年	34	松田	英人
2008(平成20)年	35	小椋	隆之
2009(平成21)年	36	山田	章司
2010(平成22)年	37	畠山	浩
2011(平成23)年	38	伊藤	光宏
2012(平成24)年	39	藤原	亮
2013(平成25)年	40	吉田	春夫
2014(平成26)年	41	横沢	淳
2015(平成27)年	42	芦萱	敬一
2016(平成28)年	43	佐々木	松雄
2017(平成29)年	44	千葉	昇
2018(平成30)年	45	雛鶴	秋四郎
2019(令和1)年	46	庄司	清隆
2020(令和2)年	47	長尾	厚志
2021(令和3)年	48	杉浦	政雄
2022(令和4)年	49	小野寺	慎也
2023(令和5)年	50	藤原	淳也
2024(令和6)年	51	藤原	淳也

岩手県ゴルフ親善大会(グランドシニア親善)

1979(昭和54)年	6	金谷	勇三郎
1980(昭和55)年	7	佐藤	邦雄
1981(昭和56)年	8	八重樫	謙二郎
1982(昭和57)年	9	飯田	隆四

1983(昭和58)年	10	金谷	勇三郎
1984(昭和59)年	11	山崎	孝一
1985(昭和60)年	12	吉田	平四郎
1986(昭和61)年	13	小岩	謙造
1987(昭和62)年	14	小岩	謙造
1988(昭和63)年	15	吉田	平四郎
1989(平成1)年	16	佐藤	又男
1990(平成2)年	17	木村	時雨
1991(平成3)年	18	松本	忠利
1992(平成4)年	19	菅原	慶喜
1993(平成5)年	20	前川	甚太郎
1994(平成6)年	21	松前	庄一
1995(平成7)年	22	佐々	木昇
1996(平成8)年	23	左館	秀之助
1997(平成9)年	24	千葉	敬助
1998(平成10)年	25	吉田	淳二
1999(平成11)年	26	佐々	木昇
2000(平成12)年	27	高橋	久男
2001(平成13)年	28	石塚	昭
2002(平成14)年	29	山口	千代美
2003(平成15)年	30	阿部	義雄
2004(平成16)年	31	村上	友信
2005(平成17)年	32	阿部	義雄
2006(平成18)年	33	阿部	義雄
2007(平成19)年	34	小椋	義基
2008(平成20)年	35	相澤	敬治
2009(平成21)年	36	阿部	義雄
2010(平成22)年	37	阿部	義雄
2011(平成23)年	38	新沼	初夫
2012(平成24)年	39	阿部	義雄
2013(平成25)年	40	平岡	忠雄
2014(平成26)年	41	高橋	康夫
2015(平成27)年	42	川邊	紀男
2016(平成28)年	43	小笠原	九二男
2017(平成29)年	44	金田	士郎
2018(平成30)年	45	八重樫	理男
2019(令和1)年	46	松川	邦夫
2020(令和2)年	47	工藤	篤雄
2021(令和3)年	48	伊藤	慎逸
2022(令和4)年	49	沼田	昌見
2023(令和5)年	50	吉田	直美
2024(令和6)年	51	小澤	茂幸

岩手県ゴルフ親善大会(シニア)

1974(昭和49)年	1	斉藤	豊吉
1975(昭和50)年	2	三浦	嘉一
1976(昭和51)年	3	伊吹	喜市
1980(昭和55)年	7	寺崎	源蔵
1981(昭和56)年	8	篠木	清
1982(昭和57)年	9	藤原	敬二郎
1983(昭和58)年	10	猪狩	弥三郎
1984(昭和59)年	11	和泉	喜六
1985(昭和60)年	12	森	次男
1986(昭和61)年	13	阿部	甲子雄
1987(昭和62)年	14	前川	甚太郎
1988(昭和63)年	15	小島	市蔵
1989(平成1)年	16	畠良	平
1990(平成2)年	17	原	昭二
1991(平成3)年	18	昆	卓二
1992(平成4)年	19	小原	興
1993(平成5)年	20	阿部	義雄
1994(平成6)年	21	阿部	義雄

※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

1995(平成7)年	22	吉田	長栄
1996(平成8)年	23	坂本	益男
1997(平成9)年	24	阿部	義雄
1998(平成10)年	25	桜野	主税
1999(平成11)年	26	小野高	昭夫
2000(平成12)年	27	大野	晴久
2001(平成13)年	28	内藤	新
2002(平成14)年	29	佐々木	睦夫
2003(平成15)年	30	佐藤	未治
2004(平成16)年	31	千葉	建郎
2005(平成17)年	32	菊地	弘尚
2006(平成18)年	33	高橋	源一
2007(平成19)年	34	大和田	助康
2008(平成20)年	35	笠井	昭彦
2009(平成21)年	36	伊藤	薫
2010(平成22)年	37	岡島	芳明
2011(平成23)年	38	菊池	栄喜
2012(平成24)年	39	小原	正秀
2013(平成25)年	40	菅原	幹男
2014(平成26)年	41	高橋	三男
2015(平成27)年	42	榎谷	義美
2016(平成28)年	43	小原	善信
2017(平成29)年	44	小原	善信
2018(平成30)年	45	盛合	豊
2019(令和1)年	46	高橋	好治
2020(令和2)年	47	三春	孝治
2021(令和3)年	48	星川	修
2022(令和4)年	49	古館	隆司
2023(令和5)年	50	千田	和見
2024(令和6)年	51	藤澤	寿広

岩手県ゴルフ親善大会(レディス)

1977(昭和52)年	4	桜岡	道子
1978(昭和53)年	5	菊池	規宰
1979(昭和54)年	6	佐藤	玲子
1980(昭和55)年	7	小泉	キクエ
1981(昭和56)年	8	伊藤	フサ
1982(昭和57)年	9	小泉	キクエ
1983(昭和58)年	10	伊藤	睦子
1984(昭和59)年	11	原	昌
1985(昭和60)年	12	原	昌
1986(昭和61)年	13	佐藤	玲子
1987(昭和62)年	14	佐々木	悦子
1988(昭和63)年	15	阿部	久子
1989(平成1)年	16	伊藤	フサ
1990(平成2)年	17	宮原	節子
1991(平成3)年	18	吉田	節子
1992(平成4)年	19	宮原	節子
1993(平成5)年	20	柳川	京子
1994(平成6)年	1	石亀	貴志子
1995(平成7)年	2	加藤	安子
1996(平成8)年	3	中野	ゆり子
1997(平成9)年	4	菅原	久子
1998(平成10)年	5	加藤	安子
1999(平成11)年	6	城戸	洋子
2000(平成12)年	7	新津	章子
2001(平成13)年	8	工藤	怜子
2002(平成14)年	9	岡田	理美子
2003(平成15)年	10	松本	詔子
2004(平成16)年	11	木村	玲子
2005(平成17)年	32	寺沢	輝子
2006(平成18)年	33	嶋	志津子

2007(平成19)年	34	千葉	純子
2008(平成20)年	35	小野寺	三枝
2009(平成21)年	36	清水	真知子
2010(平成22)年	37	斉藤	和子
2011(平成23)年	38	千葉	貴子
2012(平成24)年	39	工藤	牧子
2013(平成25)年	40	千葉	貴子
2014(平成26)年	41	米倉	育子
2015(平成27)年	42	須田	栄子
2016(平成28)年	43	熊谷	厚子
2017(平成29)年	44	須田	栄子
2018(平成30)年	45	坂田	弘美
2019(令和1)年	46	星川	あけみ
2020(令和2)年	47	村畑	香織
2021(令和3)年	48	中村	美智代
2022(令和4)年	49	三浦	小百合
2023(令和5)年	50	成島	千加子
2024(令和6)年	51	清水	順子

岩手県ゴルフ親善大会(役員)

2016(平成28)年	43	後藤	俊和
2017(平成29)年	44	高橋	武美
2018(平成30)年	45	前川	博之
2019(令和1)年	46	高橋	俊幸
2020(令和2)年	47	森澤	倫典
2021(令和3)年	48	後藤	俊和
2022(令和4)年	49	佐藤	金治
2023(令和5)年	50	高橋	秀典
2024(令和6)年	51	高橋	秀典

県民長寿体育祭ゴルフ競技

1992(平成4)年	4	山田	健治
1993(平成5)年	5	湊	昭三
1994(平成6)年	6	千葉	明
1995(平成7)年	7	細沼	博
1996(平成8)年	8	高橋	正隆
1997(平成9)年	9	久慈	正一
1998(平成10)年	10	飯塚	芳弘
1999(平成11)年	11	月岡	芳則
2000(平成12)年	12	小田島	研三
2001(平成13)年	13	岩淵	安蔵
2002(平成14)年	14	谷藤	武志
2003(平成15)年	15	伊藤	薫
2004(平成16)年	16	田村	芳道
2005(平成17)年	17	高橋	信男
2006(平成18)年	18	高田	敏晴
2007(平成19)年	19	熊谷	康
2008(平成20)年	20	細川	民救
2009(平成21)年	21	小野寺	国照
2010(平成22)年	22	細川	民救
2011(平成23)年	23	榎谷	義美
2012(平成24)年	24	舞草	泰
2013(平成25)年	25	梅野	徳人
2014(平成26)年	26	高橋	忠春
2015(平成27)年	27	藤沢	浩
2016(平成28)年	28	榎谷	義美
2017(平成29)年	29	中村	正行
2018(平成30)年	30	岩持	弘見
2019(令和1)年	31	牛坂	榮一
2020(令和2)年			※中止1
2021(令和3)年	33	坂本	幸博
2022(令和4)年	34	佐藤	悠一

2023(令和5)年	35	坂本	幸博
2024(令和6)年	36	佐藤	悠一

岩手県民体育大会ゴルフ競技(市対抗の部)

2000(平成12)年	北上市
2001(平成13)年	二戸市
2002(平成14)年	一関市
2003(平成15)年	北上市
2004(平成16)年	一関市
2005(平成17)年	北上市
2006(平成18)年	花巻市

岩手県民体育大会・ゴルフ競技(町村対抗の部)

2000(平成12)年	西根町
2001(平成13)年	岩手町
2002(平成14)年	平泉町
2003(平成15)年	滝沢村
2004(平成16)年	岩手町
2005(平成17)年	岩手町
2006(平成18)年	滝沢市

岩手県民体育大会ゴルフ競技(市町村対抗の部)

2007(平成19)年	盛岡市A
2008(平成20)年	盛岡市B
2009(平成21)年	奥州市A
2010(平成22)年	八幡平市A
2011(平成23)年	奥州市A
2012(平成24)年	盛岡市B
2013(平成25)年	一関市C
2014(平成26)年	盛岡市A
2015(平成27)年	滝沢市A
2016(平成28)年	宮古市A
2017(平成29)年	盛岡市A
2018(平成30)年	滝沢市A
2019(令和1)年	八幡平市A
2020(令和2)年	※中止1
2021(令和3)年	盛岡市A
2022(令和4)年	盛岡市A
2023(令和5)年	盛岡市B
2024(令和6)年	北上市B

岩手県民女子ゴルフ大会(選手権の部)

1999(平成11)年	1	石田	真美
2000(平成12)年	2	菊池	規宰
2001(平成13)年	3	小野寺	みき
2002(平成14)年	4	小野寺	みき
2003(平成15)年	5	小野寺	みき
2004(平成16)年	6	甲田	良美
2005(平成17)年	7	小野寺	みき
2006(平成18)年	8	菊池	るみ子
2007(平成19)年	9	菊池	るみ子
2008(平成20)年	10	菊池	るみ子
2009(平成21)年	11	菊池	るみ子
2010(平成22)年	12	山口	梓
2011(平成23)年	13	小岩	みき
2012(平成24)年	14	山口	梓
2013(平成25)年	15	岩谷	佳奈
2014(平成26)年	16	岩谷	佳奈
2015(平成27)年	17	小岩	みき
2016(平成28)年	18	海保	真美
2017(平成29)年	19	小岩	みき
2018(平成30)年	20	菊池	るみ子

※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

2019(令和1)年	21	大関	広子
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	22	斉藤	和子
2022(令和4)年	23	三浦	小百合
2023(令和5)年	24	齊藤	桃子
2024(令和6)年	25	齊藤	桃子

岩手県民女子ゴルフ大会(Wペリアの部)

1999(平成11)年	1	石田	真美
2000(平成12)年	2	熊谷	美津子
2001(平成13)年	3	吉田	節子
2002(平成14)年	4	菊池	るみ子
2003(平成15)年	5	今淵	美穂子
2004(平成16)年	6	今淵	美穂子
2005(平成17)年	7	小野寺	みき
2006(平成18)年	8	佐々木	克子
2007(平成19)年	9	須田	栄子
2008(平成20)年	10	菊池	るみ子
2009(平成21)年	11	柏崎	倫子
2010(平成22)年	12	菊池	るみ子
2011(平成23)年	13	須田	栄子
2012(平成24)年	14	松本	詔子
2013(平成25)年	15	藤原	由美子
2014(平成26)年	16	清水	真知子
2015(平成27)年	17	西舘	文子
2016(平成28)年	18	榎本	康江
2017(平成29)年	19	斉藤	和子
2018(平成30)年	20	藤原	由美子
2019(令和1)年	21	千代川	薫
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	22	井上	洋子
2022(令和4)年	23	畠山	真弓
2023(令和5)年	24	斉藤	和子
2024(令和6)年	25	藤原	由美子

岩手県ジュニアゴルフ大会(少年男子の部)

1999(平成11)年	1	伊藤	洋正
2000(平成12)年	2	藤沢	勝成
2001(平成13)年	3	藤沢	勝成
2002(平成14)年	4	阿部	雅俊
2003(平成15)年	5	星	健太
2004(平成16)年	6	高橋	克成
2005(平成17)年	7	杉本	恭平
2006(平成18)年	8	杉本	恭平
2007(平成19)年	9	杉本	恭平
2008(平成20)年	10	岩崎	成
2009(平成21)年	11	岩崎	成
2010(平成22)年	12	岩崎	成
2011(平成23)年	13	川崎	廉
2012(平成24)年	14	東	剛克
2013(平成25)年	15	米澤	蓮
2014(平成26)年	16	松村	誠
2015(平成27)年	17	米澤	蓮
2016(平成28)年	18	米澤	蓮
2017(平成29)年	19	田中	樹
2018(平成30)年	20	佐藤	佑斗
2019(令和1)年	21	田中	樹
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	22	佐藤	佑斗
2022(令和4)年	23	佐藤	佑斗
2023(令和5)年	24	後藤	羽翼
2024(令和6)年	25	中嶋	颯樹

岩手県ジュニアゴルフ大会(少年女子の部)

1999(平成11)年	1	滝沢	智美
2000(平成12)年	2	青木	希実
2001(平成13)年	3	滝沢	智美
2002(平成14)年	4	滝沢	智美
2003(平成15)年	5	青木	希実
2004(平成16)年	6	青木	希実
2006(平成18)年	8	浅沼	さや香
2007(平成19)年	9	小山田	風沙
2008(平成20)年	10	小山田	風沙
2009(平成21)年	11	佐藤	瑠海
2010(平成22)年	12	岩谷	佳奈
2011(平成23)年	13	岩谷	佳奈
2012(平成24)年	14	中田	綾乃
2013(平成25)年	15	菊地	志織
2014(平成26)年	16	菊地	志織
2015(平成27)年	17	津志田	翔子
2016(平成28)年	18	昆	夢乃
2017(平成29)年	19	渡磯	美沙季
2018(平成30)年	20	森沢	莉子
2019(令和1)年	21	齊藤	桃子
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	22	齊藤	桃子
2022(令和4)年	23	新田	智央
2023(令和5)年	24	佐々木	ひかり
2024(令和6)年	25	中野	舞子

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(男子15～17歳の部)

2006(平成18)年	1	杉本	恭平
2007(平成19)年	2	岩崎	潤也
2008(平成20)年	3	佐々木	太郎
2009(平成21)年	4	佐々木	太郎
2012(平成24)年	7	東	剛克
2013(平成25)年	8	羽澤	大地
2014(平成26)年	9	羽澤	大地
2015(平成27)年	10	米澤	蓮
2016(平成28)年	11	米澤	蓮
2017(平成29)年	12	米澤	蓮
2018(平成30)年	13	田中	樹
2019(令和1)年	14	田中	樹
2020(令和2)年	15	菊池	諒太郎
2021(令和3)年	16	佐藤	佑斗
2022(令和4)年	17	佐藤	佑斗
2023(令和5)年	18	後藤	羽翼
2024(令和6)年	19	藤原	天飛

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(女子15～17歳の部)

2007(平成19)年	2	佐藤	志穂
2008(平成20)年	3	吉岡	雪季恵
2009(平成21)年	4	佐藤	瑠海
2010(平成22)年	5	岩谷	佳奈
2011(平成23)年	6	中田	綾乃
2012(平成24)年	7	中田	綾乃
2013(平成25)年	8	津志田	翔子
2014(平成26)年	9	菊地	志織
2015(平成27)年	10	及川	莉紗
2016(平成28)年	11	渡磯	美沙季
2017(平成29)年	12	森沢	莉子
2018(平成30)年	13	森沢	莉子
2019(令和1)年	14	齊藤	桃子

2020(令和2)年	15	齊藤	桃子
2022(令和4)年	17	中野	舞子
2023(令和5)年	18	中野	舞子
2024(令和6)年	19	新田	智央

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(中学生の部)

2006(平成18)年	1	岩崎	成
2007(平成19)年	2	岩崎	成
2008(平成20)年	3	小山田	風沙
2009(平成21)年	4	佐々木	仁

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(男子12～14歳の部)

2010(平成22)年	5	佐々木	仁
2011(平成23)年	6	佐々木	仁
2012(平成24)年	7	米澤	蓮
2013(平成25)年	8	米澤	蓮
2014(平成26)年	9	米澤	蓮
2015(平成27)年	10	田中	樹
2016(平成28)年	11	高橋	遼
2017(平成29)年	12	佐藤	佑斗
2018(平成30)年	13	佐藤	佑斗
2019(令和1)年	14	菊池	諒太郎
2020(令和2)年	15	後藤	羽翼
2021(令和3)年	16	佐藤	陽生
2022(令和4)年	17	佐々木	琉月
2023(令和5)年	18	齋藤	真平
2024(令和6)年	19	齋藤	真平

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(女子12～14歳の部)

2010(平成22)年	5	谷藤	あおば
2011(平成23)年	6	谷藤	あおば
2012(平成24)年	7	菊地	志織
2013(平成25)年	8	昆	夢乃
2014(平成26)年	9	渡磯	美沙季
2015(平成27)年	10	渡磯	美沙季
2016(平成28)年	11	杉本	しま
2017(平成29)年	12	齊藤	桃子
2018(平成30)年	13	齊藤	桃子
2019(令和1)年	14	中山	葛衣
2020(令和2)年	15	中野	舞子
2021(令和3)年	16	島川	桃子
2022(令和4)年	17	佐々木	ひかり
2023(令和5)年	18	佐々木	しおり
2024(令和6)年	19	佐々木	しおり

岩手県ジュニア秋季学年別ゴルフ競技大会(男女11歳以下の部)

2006(平成18)年	1	佐々木	仁
2007(平成19)年	2	佐々木	仁
2008(平成20)年	3	佐々木	仁
2009(平成21)年	4	松村	誠
2010(平成22)年	5	米澤	蓮
2011(平成23)年	6	米澤	蓮
2012(平成24)年	7	菅原	颯馬
2013(平成25)年	8	菅原	颯馬
2014(平成26)年	9	泉田	駿輝
2015(平成27)年	10	上原	愛子
2016(平成28)年	11	菊池	諒太郎
2017(平成29)年	12	後藤	羽翼

※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

2018(平成30)年	13	中野	舞子
2019(令和1)年	14	島川	桃子
2020(令和2)年	15	島川	桃子
2021(令和3)年	16	佐々木	しおり
2022(令和4)年	17	佐々木	しおり
2023(令和5)年	18	安孫子	侑奈
2024(令和6)年	19	嶋村	秦

IBCカップ(IBC主催)

1974(昭和49)年	1	新沼	初夫
1975(昭和50)年	2	小山	雄一
1976(昭和51)年	3	佐藤	良男
1977(昭和52)年	4	佐藤	良男
1978(昭和53)年	5	佐藤	良男
1979(昭和54)年	6	佐藤	良男
1980(昭和55)年	7	佐藤	良男
1981(昭和56)年	8	千田	英昭
1982(昭和57)年	9	三浦	哲生
1983(昭和58)年	10	佐藤	良男
1984(昭和59)年	11	長尾	和人
1985(昭和60)年	12	佐藤	良男
1986(昭和61)年	13	小林	幸栄
1987(昭和62)年	14	小林	幸栄
1988(昭和63)年	15	三浦	哲生
1989(平成1)年	16	佐藤	良男
1990(平成2)年	17	三浦	哲生
1991(平成3)年	18	小林	幸栄
1992(平成4)年	19	小林	幸栄
1993(平成5)年	20	三浦	哲生
1994(平成6)年	21	山形	嘉彦
1995(平成7)年	22	高橋	功
1996(平成8)年	23	藤原	英夫
1997(平成9)年	24	三浦	哲生
1998(平成10)年	25	三浦	哲生
1999(平成11)年	26	野里	寿史
2000(平成12)年	27	千葉	明雄
2001(平成13)年	28	雛鶴	秋四郎
2002(平成14)年	29	藤本	次郎
2003(平成15)年	30	伊藤	久哉
2004(平成16)年	31	高橋	功
2005(平成17)年	32	雛鶴	秋四郎
2006(平成18)年	33	千葉	明雄
2007(平成19)年	34	高橋	靖朋
2008(平成20)年	35	高橋	功
2009(平成21)年	36	伊藤	久哉
2010(平成22)年	37	志賀	康平
2011(平成23)年	38	高橋	靖朋
2012(平成24)年	38	山科	和彦
2013(平成25)年	40	山科	和彦
2014(平成26)年	41	長登	将士
2015(平成27)年	42	高橋	靖朋
2016(平成28)年	43	高橋	禎朋
		工藤	悟
		高橋	靖朋
		田中	鉄男
		田中	勝利
2017(平成29)年	44	雛鶴	秋四郎
2018(平成30)年	45	山崎	明満
2019(令和1)年	46	高橋	靖朋
2020(令和2)年			※中止1
2021(令和3)年	47	佐々木	太郎
2022(令和4)年	48	高橋	靖朋

2023(令和5)年	49	高橋	靖朋
2024(令和6)年	50	藤田	広一郎

IBCシニアカップ(IBC主催)

1985(昭和60)年	1	武田	武美
1986(昭和61)年	2	韓錫	道
1987(昭和62)年	3	韓錫	道
1988(昭和63)年	4	十河	昭
1989(平成1)年	5	柳川	鎬根
1990(平成2)年	6	柳川	鎬根
1991(平成3)年	7	阿部	義男
1992(平成4)年	8	芳賀	元
1993(平成5)年	9	阿部	義男
1994(平成6)年	10	千葉	淳
1995(平成7)年	11	佐々木	利孝
1996(平成8)年	12	伊藤	昭
1997(平成9)年	13	和泉	覚
1998(平成10)年	14	和泉	覚
1999(平成11)年	15	吉田	和雄
2000(平成12)年	16	和泉	覚
2001(平成13)年	17	和泉	覚
2002(平成14)年	18	和泉	覚
2003(平成15)年	19	岩持	弘見
2004(平成16)年	20	吉田	久勝
2005(平成17)年	21	岩持	弘見
2006(平成18)年	22	熊谷	昇
2007(平成19)年	23	吉田	智
2008(平成20)年	24	岩持	弘見
2009(平成21)年	25	古舘	七郎
2010(平成22)年	26	新渡戸	征昭
2011(平成23)年	27	高田	敏晴
2012(平成24)年	28	熊谷	昇
2013(平成25)年	29	小岩	正一
2014(平成26)年	30	佐藤	昇
2015(平成27)年	31	小岩	正一
2016(平成28)年	32	工藤	昌伸
2017(平成29)年	33	菅野	義光
2018(平成30)年	34	小原	善信
2019(令和1)年	35	鈴木	和好
2020(令和2)年			※中止1
2021(令和3)年	36	菅野	義光
2022(令和4)年	37	鈴木	和好
2023(令和5)年	38	佐々木	尊
2024(令和6)年	39	菅野	義光

IBCグランドシニアカップ(IBC主催)

1995(平成7)年	1	川崎	一
1996(平成8)年	2	黄川田	正雄
1997(平成9)年	3	村上	豊吉
1998(平成10)年	4	川口	栄
1999(平成11)年	5	関根	義男
2000(平成12)年	6	相澤	敬治
2001(平成13)年	7	黄川田	正雄
2002(平成14)年	8	及川	千助
2003(平成15)年	9	岩渕	紀夫
2004(平成16)年	10	菅原	好一
2005(平成17)年	11	和泉	覚
2006(平成18)年	12	和泉	覚
2007(平成19)年	13	西本	晃幸
2008(平成20)年	14	熊谷	新発
2009(平成21)年	15	熊谷	新発
2010(平成22)年	16	岩渕	紀夫

2011(平成23)年	17	熊谷	新発
2012(平成24)年	18	熊谷	新発
2013(平成25)年	19	菅野	哲夫
2014(平成26)年	20	熊谷	新発
2015(平成27)年	21	村上	洋二
2016(平成28)年	22	齋藤	富夫
2017(平成29)年	23	岩持	弘見
2018(平成30)年	24	三浦	哲生
2019(令和1)年	25	石川	忠一
2020(令和2)年			※中止1
2021(令和3)年	26	藤本	次郎
2022(令和4)年	27	道又	廣喜
2023(令和5)年	28	小岩	正一
2024(令和6)年	29	徳永	三郎

IBCレディースカップ(IBC主催)

1983(昭和58)年	1	伊藤	郁子
1984(昭和59)年	2	伊藤	睦子
1985(昭和60)年	3	伊藤	睦子
1986(昭和61)年	4	伊藤	睦子
1987(昭和62)年	5	伊藤	睦子
1988(昭和63)年	6	小林	早苗
1989(平成1)年	7	小林	早苗
1990(平成2)年	8	小林	早苗
2018(平成30)年	9	阿部	早苗
2020(令和2)年			※中止1
2021(令和3)年	10	及川	莉紗
2022(令和4)年	11	齊藤	桃子
2023(令和5)年	12	齊藤	桃子
2024(令和6)年	13	小笠原	佳奈

TCC東北チャンピオンカップ(テレビ岩手主催)

1983(昭和58)年	1	小林	幸栄
1984(昭和59)年	2	佐藤	良男
1985(昭和60)年	3	鈴木	正幸
1986(昭和61)年	4	三浦	哲生 ※1
1987(昭和62)年	5	小林	幸栄
1988(昭和63)年	6	松本	重光
1989(平成1)年	7	岩田	光男
1990(平成2)年	8	権純	福
1991(平成3)年	9	佐藤	良男
1992(平成4)年	10	金山	昭彦
1993(平成5)年	11	権	純福
1994(平成6)年	12	氏家	貞夫
1995(平成7)年	13	三浦	哲生
1996(平成8)年	14	伊藤	久哉
1997(平成9)年	15	権	純福
1998(平成10)年	16	星野	英正
1999(平成11)年	17	星野	英正
2000(平成12)年	18	三浦	哲生
2001(平成13)年	19	米澤	友一
2002(平成13)年	20	雛鶴	秋四郎
2002(平成14)年	20	雛鶴	秋四郎
2003(平成15)年	21	内藤	寛太郎
2004(平成16)年	22	前田	道男
2005(平成17)年	23	雛鶴	秋四郎
2006(平成18)年	24	菊地	秀明
2007(平成19)年	25	高橋	克成
2008(平成20)年	26	菊地	秀明
2009(平成21)年	27	竹澤	瞬

※1：第1～4回までは北東北(岩子、青森、秋田) ※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

全国都道府県対抗アマチュアゴルフ選手権大会 岩手県代表選考会(岩手日報主催)

1983(昭和58)年	1	北田 正彦	塩竈 博隆	宮田 広志	
1984(昭和59)年	2	佐藤 良男	伊藤 久哉	三浦 哲生	
1985(昭和60)年	3	三浦 哲生	伊藤 久哉	佐藤 良男	
1986(昭和61)年	4	広瀬 功	齋藤 富夫	野里 壽史	※1
1987(昭和62)年	5	伊藤 久哉	三浦 哲生	小林 幸栄	
1988(昭和63)年	6	千田 英昭	佐藤 良男	氏家 弘之	
1989(平成1)年	7	小林 幸栄	吉田 広志	佐藤 良男	
1990(平成2)年	8	千葉 明雄	佐藤 良男	平泉 次美	
1991(平成3)年	9	三浦 哲生	中村 正秀	新田 浩	
1992(平成4)年	10	高木 祐弥	奥寺 義房	新田 浩	
1993(平成5)年	11	藤原 英夫	三浦 哲生	塩竈 博隆	
1994(平成6)年	12	藤原 英夫	山田 七徳	西本 晃幸	
1995(平成7)年	13	奥寺 義房	三浦 哲生	藤原 英夫	
1996(平成8)年	14	高木 祐弥	藤原 英夫	武藤 武	
		伊藤 久哉	氏家 弘之	佐藤 良男	※2
1997(平成9)年	15	宮田 広志	熊谷 新発	武藤 武	
1998(平成10)年	16	柿沢 昭弘	熊谷 新発	伊藤 久哉	
1999(平成11)年	17	千葉 明雄	高木 祐弥	塩竈 博隆	
2000(平成12)年	18	駒井 吉郎	奥寺 義房	小幡 健一	
2001(平成13)年	19	山田 七徳	三浦 哲生	西本 晃幸	
2002(平成14)年	20	三浦 哲生	中川分一郎	川村 亨	
2003(平成15)年	21	高橋 功	菅野 弘見	武藤 武	
2004(平成16)年	22	福原 敏行	千葉 明雄	伊藤 久哉	
2005(平成17)年	23	雛鶴秋四郎	小泉 徹	伊藤 久哉	
2006(平成18)年	24	伊藤 久哉	小泉 徹	藤本 次郎	
2007(平成19)年	25	氏家 弘之	雛鶴秋四郎	福原 敏行	
2008(平成20)年	26	杉澤 敬二	伊藤 久哉	雛鶴秋四郎	
2009(平成21)年	27	雛鶴秋四郎	福原 敏行	高橋 功	
2010(平成22)年	28	伊藤 久哉	斉藤 孝之	高橋 靖朋	
2011(平成23)年	29	渡辺 正樹	工藤 悟	菅原 祐喜	
2012(平成24)年	30	村田 謙二	斉藤 孝之	福原 敏行	
2013(平成25)年	31	野又 雄太	村田 謙二	藤原 耕道	
2014(平成26)年	32	藤本 次郎	高橋 功	高橋 直樹	
2015(平成27)年	33	中川分一郎	雛鶴秋四郎	高橋 直樹	
2016(平成28)年	34	佐々木太郎	工藤 悟	松村 誠	
2017(平成29)年	35	伊藤 一雄	杉澤 敬二	佐々木太郎	
2018(平成30)年	36	工藤 悟	樋口 和哉	高橋 靖朋	
2019(令和1)年	37	高橋 靖朋	坂本 幸博	渡辺 正樹	

国民体育大会ゴルフ競技県代表選手選考会(成年男子の部)

2000(平成12)年	千葉 明雄	高橋 功		
	伊藤 久哉	柿沢 昭弘		
2001(平成13)年	雛鶴秋四郎	武藤 武	伊藤 久哉	
2002(平成14)年	武藤 武	雛鶴秋四郎	志村 博康	
2003(平成15)年	雛鶴秋四郎	武藤 武	工藤 雅彦	
2004(平成16)年	高橋 功	星 健太	工藤 雅彦	
2005(平成17)年	高橋 功	雛鶴秋四郎	三浦 哲生	
2006(平成18)年	高橋 功	千葉 明雄	三浦 哲生	
2007(平成19)年	小泉 徹	雛鶴秋四郎	星 健太	
2008(平成20)年	星 健太	小泉 徹	高橋 滋	
2009(平成21)年	雛鶴秋四郎	星 健太	千田 弘寿	
2010(平成22)年	雛鶴秋四郎	野又 雄太	星 健太	
2011(平成23)年	野又 雄太	高橋 功	雛鶴秋四郎	
2012(平成24)年	雛鶴秋四郎	亀澤 将也	小泉 徹	
2013(平成25)年	星 健太	小泉 徹	村田 謙二	
2014(平成26)年	星 健太	菅原 吉博	野又 雄太	
2015(平成27)年	佐藤 宗太	星 健太	小泉 徹	
2016(平成28)年	佐々木太郎	佐々木 仁	山科 和彦	
2017(平成29)年	佐々木太郎	村田 謙二	佐々木 仁	
2018(平成30)年	米澤 蓮	村田 謙二	鈴木 佑一	

2019(令和1)年	佐々木太郎	星 健太	渡辺 正樹
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年		※中止1	
2022(令和4)年	高橋 靖朋	佐々木太郎	星 健太
2023(令和5)年	佐々木太郎	佐藤 佑斗	星 健太
2024(令和6)年	星 健太	佐々木太郎	菊池諒太郎

国民体育大会ゴルフ競技県代表選手選考会(成年女子の部)

2000(平成12)年	石田 真美	菊池 規宰	
	菊池るみ子	今淵美穂子	
2001(平成13)年	小野寺みき	菊池るみ子	三浦小百合
2002(平成14)年	菊池るみ子	小野寺みき	今淵美穂子
2003(平成15)年	小野寺みき	今淵美穂子	菊池るみ子
2004(平成16)年	小野寺みき	甲田 良美	菊池るみ子
2005(平成17)年	菊池るみ子	松本 詔子	小野寺みき

国民体育大会ゴルフ競技県代表選手選考会(女子の部)

2006(平成18)年	小野寺みき	菊池るみ子	浅沼さや香
2007(平成19)年	菊池るみ子	小岩 みき	佐藤 志穂
2008(平成20)年	小岩 みき	菊池るみ子	佐藤 瑠海
2009(平成21)年	菊池るみ子	小岩 みき	佐藤 瑠海
2010(平成22)年	山口 梓	小岩 みき	佐藤 瑠海
2011(平成23)年	菊池るみ子	中田 綾乃	岩谷 佳奈
2012(平成24)年	山口 梓	中田 綾乃	岩谷 佳奈
2013(平成25)年	岩谷 佳奈	菊地 志織	中田 綾乃
2014(平成26)年	岩谷 佳奈	中田 綾乃	津志田翔子
2015(平成27)年	中田 綾乃	津志田翔子	昆 夢乃
2016(平成28)年	中田 綾乃	佐藤 彩奈	昆 夢乃
2017(平成29)年	中田 綾乃	津志田翔子	森沢 莉子
2018(平成30)年	中田 綾乃	津志田翔子	森沢 莉子
2019(令和1)年	津志田翔子	中田 綾乃	齊藤 桃子
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年		※中止1	
2022(令和4)年	中野 舞子	中田 綾乃	齊藤 桃子
2023(令和5)年	中野 舞子	中田 綾乃	津志田翔子
2024(令和6)年	中野 舞子	佐々木ひかり	中田 綾乃

国民体育大会ゴルフ競技県代表選手選考会(少年男子の部)

2000(平成12)年	亀津 将也	東館 勲幸	
	阿部 雅俊	伊藤 士史	
2001(平成13)年	亀津 将也	星 健太	阿部 雅俊
2002(平成14)年	亀津 将也	阿部 雅俊	酒 井武士
2003(平成15)年	星 健太	高橋 克成	藤原 義和
2004(平成16)年	高橋 克成	中野 恭平	亀澤 拓也
2005(平成17)年	杉本 恭平	菅原 圭巨	中野 恭平
2006(平成18)年	菅原 圭巨	岩崎 潤也	中里 拓弥
2007(平成19)年	杉本 恭平	岩崎 潤也	菅原 圭巨
2008(平成20)年	岩崎 成	中野 拓弥	松ノ木琢磨
2009(平成21)年	岩崎 成	千葉 優也	柴田 大心
2010(平成22)年	岩崎 成	佐々木太郎	柴田 大心
2011(平成23)年	川崎 廉	東 剛克	佐藤 宗太
2012(平成24)年	東 剛克	松村 誠	佐藤 宗太
2013(平成25)年	東 剛克	松村 誠	小山田晟浩
2014(平成26)年	米澤 蓮	松村 誠	東 剛克
2015(平成27)年	米澤 蓮	松村 誠	米内 真人
2016(平成28)年	米澤 蓮	角掛竜太郎	遠藤 真
2017(平成29)年	米澤 蓮	田中 樹	松本 拓巳
2018(平成30)年	遠藤 元	遠藤 真	田中 樹
2019(令和1)年	菊池諒太郎	佐藤 佑斗	田中 樹
2020(令和2)年		※中止1	
2021(令和3)年	佐藤 佑斗	菊池諒太郎	後藤 羽翼
2022(令和4)年	後藤 羽翼	佐藤 佑斗	菊池諒太郎

※1：第4回までは県アマ上位者。第5回より単独開催 ※2：開催県のため2チーム出場 ※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

2023(令和5)年	後藤 羽翼	中嶋 颯樹	石川 唯人
2024(令和6)年	中嶋 颯樹	藤原 天飛	佐々木琉月

日本スポーツマスターズ 県代表選手(男子)

2004(平成16)年	三浦 哲生	村上 康雄	西本 晃幸
2005(平成17)年	岩持 弘見	小野寺国照	和泉 覚
2006(平成18)年	岩持 弘見	和泉 覚	小野寺登紀治
2007(平成19)年	佐藤 良男	和泉 覚	小原 栄一
2008(平成20)年	三浦 哲生	藤本 次郎	佐藤 良男
2009(平成21)年	三浦 哲生	福原 敏行	村上 洋二
2010(平成22)年	佐々木儀一	福原 敏行	岩持 弘見
2011(平成23)年	柿沢 昭弘	村上 洋二	小岩 正一
2012(平成24)年	高橋 功	野里 壽史	菊地 一之
2013(平成25)年	高橋 功	藤本 次郎	高橋 諭
2014(平成26)年	雛鶴秋四郎	福原 敏行	藤本 次郎
2015(平成27)年	高橋 功	佐々木 謙	菊地 一之
2016(平成28)年	鈴木 徹	柿沢 昭弘	高橋 功
2017(平成29)年	高橋 功	雛鶴秋四郎	藤本 次郎
2018(平成30)年	高橋 功	菅野 義光	工藤 悟
2019(令和1)年	雛鶴秋四郎	菅原 吉博	高橋 功
2020(令和2)年	※中止1		
2021(令和3)年	※中止1		
2022(令和4)年	千田 正純	高橋 直樹	山崎 明満
2023(令和5)年	工藤 悟	村田 謙二	千田 正純
2024(令和6)年	菅原 吉博	千田 正純	山崎 明満

日本スポーツマスターズ 県代表選手(女子)

2004(平成16)年	山田 治美	須田 栄子	吉田 節子
2005(平成17)年	吉田 節子	須田 栄子	山田 治美
2006(平成18)年	柏崎 倫子	須田 栄子	山田 治美
2007(平成19)年	須田 栄子	大関 広子	木村 玲子
2008(平成20)年	吉田 節子	柏崎 倫子	山田 治美
2009(平成21)年	須田 栄子	山田 治美	吉田 節子
2010(平成22)年	須田 栄子	山田 治美	吉田 節子
2011(平成23)年	須田 栄子	山田 治美	雛鶴美弥子
2012(平成24)年	成島千加子	鈴木美智恵	雛鶴美弥子
2013(平成25)年	柏崎 倫子	須田 栄子	雛鶴美弥子
2014(平成26)年	菊池るみ子	藤原由美子	斉藤 和子
2015(平成27)年	大関 広子	菊池るみ子	泉田由紀子
2016(平成28)年	三浦小百合	菊池るみ子	須田 栄子
2017(平成29)年	菊池るみ子	大関 広子	三浦小百合
2018(平成30)年	菊池るみ子	大関 広子	斉藤 和子
2019(令和1)年	大関 広子	藤田 美穂	海保 真美
2020(令和2)年	※中止1		
2021(令和3)年	※中止1		
2022(令和4)年	三浦小百合	小岩 みき	星川あけみ
2023(令和5)年	菊池るみ子	藤原由美子	阿部 早苗
2024(令和6)年	三浦小百合	菊池るみ子	森澤ひかり

※中止1：新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

東北・全国大会優勝者一覧

東北アマチュア選手権競技

1975(昭和50)年	10	佐藤	良男
1976(昭和51)年	11	佐藤	良男
1979(昭和54)年	14	三浦	哲生
1981(昭和56)年	16	三浦	哲生
1982(昭和57)年	17	佐藤	良男
2001(平成13)年	36	米澤	友一
2019(平成31)年	54	米澤	蓮

東北倶楽部対抗競技

1977(昭和52)年	12	南部富士
1980(昭和55)年	15	南部富士
1982(昭和57)年	17	南部富士
1984(昭和59)年	19	栗駒
1988(昭和63)年	23	栗駒
1989(昭和64)年	24	南部富士
1990(平成2)年	25	一関
1992(平成4)年	27	一関
1993(平成5)年	28	一関
1994(平成6)年	29	南部富士
1997(平成9)年	32	栗駒

東北女子倶楽部対抗競技

2010(平成22)年	11	栗駒
2012(平成24)年	12	栗駒
2014(平成26)年	14	栗駒
2016(平成28)年	16	盛岡ハイランド
2021(令和3)年	20	盛岡
2022(令和4)年	21	盛岡
2023(令和5)年	22	盛岡
2024(令和6)年	23	盛岡

東北シニア選手権競技

1986(昭和61)年	9	高橋	久男
1990(平成2)年	13	阿部	義男
1993(平成5)年	16	三浦	哲生
1994(平成6)年	17	三浦	哲生
1995(平成7)年	18	三浦	哲生
1997(平成9)年	20	三浦	哲生
1998(平成10)年	21	新沼	初夫
1999(平成11)年	22	三浦	哲生
2008(平成20)年	31	雛鶴	秋四郎
2012(平成24)年	35	雛鶴	秋四郎
2016(平成28)年	39	高橋	功
2017(平成29)年	40	雛鶴	秋四郎

東北ミッドシニア選手権競技

1997(平成9)年	4	芳賀	元
1998(平成10)年	5	和泉	覚
1999(平成11)年	6	西本	晃幸
2000(平成12)年	7	西本	晃幸
2003(平成15)年	10	三浦	哲生
2008(平成20)年	15	齋藤	富夫
2009(平成21)年	16	岩持	弘見
2011(平成23)年	18	佐藤	孝
2015(平成27)年	22	藤本	次郎

東北グランドシニア選手権競技

1983(昭和58)年	5	畠	秀四郎
1984(昭和59)年	6	林	貫一
1985(昭和60)年	8	及川	太治
1990(平成2)年	13	水落	四郎
2003(平成15)年	26	和泉	覚
2006(平成18)年	29	熊谷	新発
2008(平成20)年	31	三浦	哲生
2009(平成21)年	32	三浦	哲生
2011(平成23)年	34	三浦	哲生
2012(平成24)年	35	三浦	哲生
2013(平成25)年	36	三浦	哲生
2014(平成26)年	37	齋藤	富夫
2016(平成28)年	39	村上	洋二
2018(平成30)年	41	村上	洋二
2019(平成31)年	42	藤本	次郎
2021(令和3)年	43	藤本	次郎
2023(令和5)年	45	雛鶴	秋四郎
2024(令和6)年	46	雛鶴	秋四郎

東北女子アマチュア選手権競技

1986(昭和61)年	9	伊藤	睦子
1988(昭和63)年	11	大久保	由嘉
1990(平成2)年	13	大久保	由嘉
1994(平成6)年	17	小林	早苗

東北女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技

2018(平成30)年	1	小岩	みき
2023(令和5)年	5	中田	綾乃
2024(令和6)年	6	中田	綾乃

東北ジュニア選手権競技 (男子15-17歳の部)

2000(平成12)年	6	米澤	友一
2015(平成27)年	21	米澤	蓮
2016(平成28)年	22	米澤	蓮
2017(平成29)年	23	米澤	蓮

東北ジュニア選手権競技 (中学男子の部)

1984(昭和59)年	4	金谷	嶺孝
-------------	---	----	----

東北ジュニア選手権競技 (男子12-14歳の部)

1997(平成9)年	3	米澤	友一
2013(平成25)年	19	米澤	蓮
2014(平成26)年	20	米澤	蓮

東北ジュニア選手権競技 (男子11歳以下の部)

2011(平成23)年	17	米澤	蓮
-------------	----	----	---

東北ジュニア選手権競技 (女子の部)

1986(昭和61)年	6	大久保	由嘉
1987(昭和62)年	7	大久保	由嘉
1988(昭和63)年	8	大久保	由嘉
1990(平成2)年	10	大久保	由嘉

1991(平成3)年	11	大久保	由嘉
------------	----	-----	----

全国中学校ゴルフ選手権 春季大会

1989(昭和64)年	9	大久保	由嘉
-------------	---	-----	----

日本シニアオープン選手権競技 (ローエストアマチュア)

1997(平成9)年	4	三浦	哲生
------------	---	----	----

日本シニア選手権競技

1997(平成9)年	19	三浦	哲生
1998(平成10)年	20	三浦	哲生

日本ミッドシニア選手権競技

1999(平成11)年	6	西本	晃幸
-------------	---	----	----

日本グランドシニア選手権競技

2008(平成20)年	19	三浦	哲生
-------------	----	----	----

日本スポーツマスターズ・ゴルフ競技男子

2013(平成25)年	13	高橋	功
-------------	----	----	---

報知シニアアマゴルフ選手権

2023(令和5)年	12	雛鶴	秋四郎
------------	----	----	-----